

学校法人 実践女子学園

平成 23 年（2011 年）度事業報告書

学校法人 実践女子学園

目 次

I	建学の精神、教育理念及び概要	1
	◎建学の精神.....	1
	◎本学の教育理念.....	1
	◎学園第2世紀の教育使命.....	1
	◎学園の概要.....	1
	1 学園の目的.....	1
	2 教育の趣旨.....	1
	3 設置する学校及び所在地.....	2
	4 沿革.....	2
	5 組織.....	4
	6 設置学校の入学定員・収容定員・学生生徒数.....	5
	7 役員・評議員.....	7
	8 教職員数.....	9
	9 関係する会社.....	10
II	平成23年(2011年)度事業の概要	11
	1 教育事業の推進.....	11
	2 教育研究活動支援の推進.....	16
	3 学生・生徒支援の推進.....	17
	4 入試・広報の推進.....	19
	5 創立120周年整備事業の推進.....	20
	6 国際交流の推進.....	20
	7 社会貢献・地域連携等の推進.....	21
	8 卒業生向け活動の推進.....	23
	9 建学の精神の高揚－創立者下田歌子顕彰事業.....	23
	10 管理運営.....	24
	11 情報インフラの整備.....	25
	12 地球温暖化対策の推進.....	25
	13 施設設備の改修・更新等.....	25
	14 財務計画.....	26
	15 主な事業活動実績.....	27
	16 参考資料.....	31
III	財務の概要	45
	決算書類等.....	45
	1 資金収支計算書の状況.....	45
	2 消費収支計算書の状況.....	45
	3 貸借対照表の状況.....	46
	4 収益事業決算の状況.....	47
	5 今後の財政上の課題.....	47
	消費収支計算書・貸借対照表の5年間推移(平成19年度～平成23年度).....	48
	1 消費収支の推移.....	48
	2 貸借対照表の推移.....	48

I 建学の精神、教育理念及び概要

◎建学の精神

本学の建学の精神は、学祖下田歌子が明治32年（1899年）に設立した帝国婦人協会私立実践女学校規則第1条「本邦固有の女徳を啓発し、日進の学理を応用し、勉めて現今の社会に適応すべき実学を教授し、賢母良妻を養成する」を継承しています。

◎本学の教育理念

下田歌子の遺訓に「女性の資質は、純一で慈愛に富み、その清らかな徳性とゆたかな情操をもって社会の弊を正し、広く世人に至福をもたらすことにある」と述べられています。

本学はこの資質の涵養につとめ内に剛、外に柔、時勢に即し適切な修練を重ね、絶えず進歩向上をはかり、世界の平和と人類の福祉とをめざして実践躬行、その任を果たすことをおののちに期待します。

よって本学は深奥な学術の研究と教授とを行うとともに、教養を深め知徳そなわり心身すこやかに、品格高雅な女性を育成しようとするものです。

（昭和48年11月29日第6回大学・短期大学合同教授会）

◎学園第2世紀の教育使命

上記のような学祖下田歌子の建学の精神に立脚して、学園第2世紀の教育理念を“品格高雅にして自立自営し得る女子教育”としています。

大学・短期大学においては、幅広く深い教養と専門的学芸を考究する教育を、中学校高等学校においては、女子教育の伝統を踏まえた社会のニーズに応える教育を目標に掲げ、それぞれの教育使命を果たすべく教育研究の活性化や経営改善への取り組みを積極的に進めています。

[大学・短期大学の教育使命]

(1) 幅広い職業人養成 (2) 総合的教養教育 (3) 生涯学習 (4) 社会貢献

[中学校高等学校の教育使命]

(1) 質素・堅実を踏まえた品格ある女子教育の堅持 (2) 社会の変化を踏まえた女子教育の構築

◎学園の概要

1 学園の目的

教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神及び上記の教育使命に基づいた学校教育を行っています。そして、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを実践し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的として、現在、本学園は実践女子大学、実践女子短期大学、実践女子学園高等学校、実践女子学園中学校の4校を設置しています。以下、特記なき場合、基準日は平成24年3月31日としています。

2 教育の趣旨

建学の精神である女性の資質の涵養と品格ある女性の育成を目指して実学を中心に教授し、広い教養を持って自立し社会の一員としての責任を果たす人材を育ててまいります。また、常に自己点検・評価を行って自ら改善を図るとともに、それらを公表して社会的責任を果たし、さらなる前進を図ってまいります。

3 設置する学校及び所在地

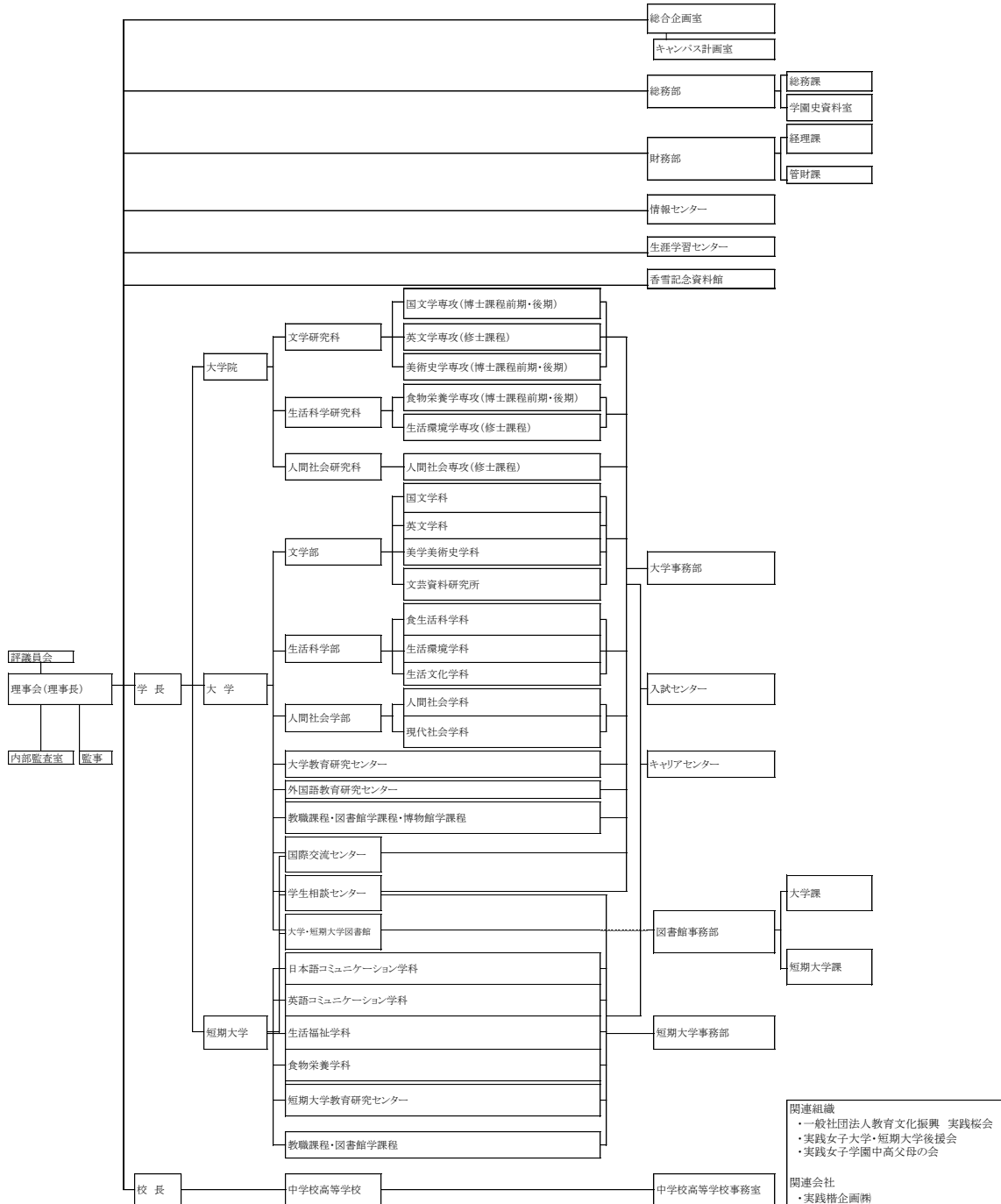
- (1) 大学 〒191-8510 東京都日野市大坂上 4-1-1
 実践女子大学
 文学部、生活科学部、人間社会学部
 実践女子大学大学院
 文学研究科、生活科学研究科、人間社会研究科
- (2) 短期大学 〒191-0016 東京都日野市神明 1-13-1
 実践女子短期大学
 日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科、生活福祉学科、
 食物栄養学科
- (3) 高等学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 1-1-11
 実践女子学園高等学校 スタンダード実践クラス、グローバルスタディーズクラス
- (4) 中学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 1-1-11
 実践女子学園中学校 スタンダード実践クラス、グローバルスタディーズクラス

4 沿革

明治 32 年 (1899 年) 5 月	帝国婦人協会私立実践女学校並びに女子工芸学校を創設、千代田区麹町に開校
明治 36 年 (1903 年) 5 月	実践女学校・女子工芸学校を渋谷新校舎に移転
明治 41 年 (1908 年) 4 月	実践女学校・女子工芸学校を合併して私立実践女学校と改称し、更に実践女学校中等学部と改称。高等専門学部を開設し、家政科と技芸科を設置。 実践女学校付属幼稚園を開設。
昭和 7 年 (1932 年) 4 月	実践女学校各部の名称を実践女子専門学校・実践高等女学校、実践実科高等女学校と改称
昭和 9 年 (1934 年) 1 月	実践実科高等女学校の組織を改め実践第二高等女学校と改称
昭和 22 年 (1947 年) 4 月	新教育制度により、実践女子学園中学部を新設
昭和 23 年 (1948 年) 3 月	新教育制度により、実践女子学園高等学校を新設
昭和 24 年 (1949 年) 2 月	実践女子大学 (4 年制) 文家政学部設置
昭和 25 年 (1950 年) 4 月	実践女子学園短期大学家政科設置
昭和 27 年 (1952 年) 2 月	実践女子学園短期大学国文科、英文科増設
昭和 40 年 (1965 年) 1 月 4 月	実践女子大学文家政学部を廃止し、文学部、家政学部を設置 東京都日野市に大学教養課程の授業を移転
昭和 41 年 (1966 年) 4 月	実践女子大学大学院 (修士課程) 文学研究科国文学専攻、英文学専攻、家政学研究科食物・栄養学専攻設置
昭和 44 年 (1969 年) 4 月	実践女子大学大学院 (博士課程) 文学研究科国文学専攻設置
昭和 51 年 (1976 年) 4 月	東京都日野市に短期大学を移転
昭和 60 年 (1985 年) 12 月	実践女子大学文学部美学美術史学科設置
昭和 61 年 (1986 年) 4 月	東京都日野市に大学を全面移転
昭和 63 年 (1988 年) 4 月	実践女子短期大学国文科、英文科、家政科を国文学科、英文学科、生活文化学科に名称変更
平成元年 (1989 年) 4 月	実践女子大学大学院 (修士課程) 家政学研究科被服学専攻設置
平成 4 年 (1992 年) 4 月	実践女子大学大学院 (修士課程) 文学研究科美術史学専攻設置

平成 7 年 (1995 年) 4 月	実践女子大学家政学部を生活科学部に、家政学部食物学科及び被服学科をそれぞれ生活科学部食生活科学科及び生活環境学科に名称変更 生活科学部に新たに生活文化学科を設置
平成 11 年 (1999 年) 4 月 5 月	実践女子大学大学院家政学研究科を生活科学研究科に、家政学研究科被服学専攻を生活科学研究科生活環境学専攻に名称変更 実践女子学園創立百周年記念式典挙行
平成 12 年 (2000 年) 4 月	実践女子短期大学国文学科、英文学科を日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科に名称変更、生活文化学科を廃止し、生活福祉学科及び食物栄養学科を設置
平成 16 年 (2004 年) 4 月 5 月	実践女子大学人間社会学部人間社会学科設置 学祖下田歌子生誕 150 年記念式典
平成 17 年 (2005 年) 4 月	実践女子大学大学院生活科学研究科食物栄養学専攻博士後期課程を設置、同食物・栄養学専攻修士課程を食物栄養学専攻博士前期課程に改める 実践女子大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程を博士前期課程・後期課程に改める
平成 19 年 (2007 年) 4 月	実践女子大学生活科学部生活文化学科を生活文化専攻と幼児保育専攻に専攻分離
平成 20 年 (2008 年) 4 月	実践女子学園中学校にグローバルスタディーズクラス(GSC)を設置
平成 21 年 (2009 年) 6 月	実践女子学園創立 110 周年記念行事を実施
平成 22 年 (2010 年) 4 月	実践女子大学大学院人間社会研究科人間社会専攻修士課程設置
平成 23 年 (2011 年) 4 月	実践女子大学人間社会学部に現代社会学科を設置 実践女子大学大学院文学研究科美術史学専攻博士後期課程を設置、同美術史学専攻修士課程を博士前期課程に改める 実践女子短期大学生活福祉学科の学生募集を停止 実践女子学園高等学校にグローバルスタディーズクラス(GSC)を設置

5 組織 学園組織図



6 設置学校の入学定員・収容定員・学生生徒数

(平成23年5月1日現在)

[大学]

学部名	学科・専攻名	入学定員	編入学定員 3年次	収容定員	入学 者数	編入学 者数 3年次	学生数					
							1年次	2年次	3年次	4年次	合計	
文学部	国文学科 *1	110	15	500	139	9	139	161	155	166	621	
	英文学科 *1	110	15	500	121	9	121	162	156	154	593	
	美学美術史学科 *1	90	10	410	109	1	109	112	103	94	418	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	14	308	75	1	75	71	94	79	319
		食物科学専攻	75	5	310	92	2	92	80	91	87	350
	生活環境学科	80	10	340	95	7	95	111	109	79	394	
	生活文化学科	生活文化学コース	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
		生活文化専攻	40	10	180	49	8	49	55	64	51	219
	幼児保育専攻	45	5	190	47	0	47	51	47	52	197	
人間社会学部	人間社会学科 *2	100	20	660	218	12	218	183	169	183	753	
	現代社会学科 *2	100				—						
合計		820	104	3,398	945	49	945	986	988	947	3,866	

*1 入学定員 平成22年度まで→平成23年度：国文（120→110）、英文（120→110）、美学美術史（100→90）

*2 入学定員 平成22年度まで→平成23年度：人間社会（140→100）、現代社会（0→100）
人間社会学部は学部一括募集

[大学院]

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	入学者数	学生数			
					1年次	2年次	3年次	合計
文学研究科	国文学専攻（博士後期課程）	3	9	0	0	2	4	6
	国文学専攻（博士前期課程）	10	20	5	5	6	—	11
	英文学専攻（修士課程）	6	12	0	0	1	—	1
	美術史学専攻（博士後期課程） *3	2	2	1	1	—	—	1
	美術史学専攻（博士前期課程）	6	12	8	8	8	—	16
生活科学研究科	食物栄養学専攻（博士後期課程）	2	6	1	1	2	0	3
	食物栄養学専攻（博士前期課程）	6	12	1	1	4	—	5
	生活環境学専攻（修士課程）	6	12	1	1	1	—	2
人間社会研究科	人間社会専攻（修士課程）	7	14	3	3	3	—	6
合計		48	99	20	20	27	4	51

*3 美術史学専攻（博士後期課程）は、平成23年度より設置

〔短期大学〕

学科・コース名	入学定員	収容定員	入学者数	学生数		
				1年次	2年次	合計
日本語コミュニケーション学科	100	200	78	78	110	188
英語コミュニケーション学科	120	240	観光ビジネスコース	51	75	126
			国際コミュニケーションコース	40	38	78
生活福祉学科 *4	—	80	—	—	58	58
食物栄養学科	80	160	89	89	85	174
合 計	300	680	258	258	366	624

*4 生活福祉学科は、平成 23 年度より募集停止

〔高等学校・中学校〕

学 校	クラス	募集人員	収容定員	生徒数
中学校	スタンダード実践クラス(一般学級)	240	840	831
	グローバルスタディーズクラス(国際学級)	40		
高等学校	スタンダード実践クラス(一般学級) *5	240	920	893
	グローバルスタディーズクラス(国際学級)	40		
高等学校・中学校計		560	1,760	1,724

*5 募集人員 平成 22 年度まで→平成 23 年度：280→240

学生・生徒数合計	6,265
----------	-------

7 役員・評議員

(1) 役員の概要

(基準日：平成24年3月31日)

定員数 理事 12～15人、監事 2人

区分(担当)	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長 (財務)	井原 徹	常勤	平成20年4月1日常務理事就任 平成21年4月1日理事長就任
副理事長 (高等教育改革、教学、 広報)	湯浅 茂雄	常勤	平成15年4月1日理事就任(大学文学部長) 平成19年4月1日理事就任(実践女子大学・ 実践女子短期大学学長) 平成23年4月1日副理事長就任
常務理事 (校舎等整備、施設設備 等整備、危機管理)	宮原 幹二	常勤	平成20年4月1日事業理事就任(総務部長) 平成21年4月1日常務理事就任
常務理事 (総合企画、総務、人事、 労務)	安達 勉	常勤	平成21年4月1日事業理事就任(総合企画 室部長) 平成22年9月29日常務理事就任
理事 (中等教育改革、高大連携)	嶋野 恵子	常勤	平成22年4月1日理事就任(実践女子学園 中学校・高等学校校長)
理事 (入試、FD・自己点検、 国際交流)	難波 雅紀	常勤	平成23年6月10日理事就任(大学文学部長)
理事 (整備計画2期)	大久保 洋子	常勤	平成22年4月1日理事就任(大学生生活科学 部長)
理事 (学生、就職、研究、G P)	飯田 良明	常勤	平成20年4月1日理事就任(大学人間社会 学部長)
理事 (社会貢献・地域連携、 短期大学改革)	萩野 敏	常勤	平成23年4月1日理事就任(短期大学部長)
理事 (SD、福利厚生)	玉置 美佐子	常勤	平成23年4月1日理事就任(実践女子学園 中学校高等学校事務室部長)
理事	池田 章子	非常勤	平成15年4月4日理事就任(ブルドックソ ース(株)代表取締役社長)
理事	鍛島 康子	非常勤	平成20年5月26日理事就任((社)教育文化 振興実践桜会理事長)
理事	吉益 信治	非常勤	平成8年4月10日理事就任(弁護士)
理事	山本 章正	非常勤	平成20年4月1日理事就任(日野自動車(株) 専務取締役)
監事	柳川 正興	非常勤	平成15年4月4日監事就任
監事	柿本 静志	非常勤	平成19年4月1日監事就任

平成23年度決算承認に係る理事会開催日(平成24年5月25日)までの役員異動状況

(平成24年3月31日退任)

理事	鍛島 康子	非常勤	(一社)教育文化振興実践桜会理事長
監事	柳川 正興	非常勤	

(平成24年4月1日就任)

常任監事	長島 敏市	常勤	平成24年4月1日常任監事就任
------	-------	----	-----------------

(平成24年5月25日就任)

理事	浦上 淳子	非常勤	(一社)教育文化振興実践桜会理事長
----	-------	-----	-------------------

(2) 評議員の概要

(基準日：平成 24 年 3 月 31 日)

定員数 27～34 人

氏 名	主な現職等	氏 名	主な現職等
山内博之	文学部国文学科主任	安達 勉	常務理事、総合企画室部長
島 高行	文学部英文学科主任	藤代 洋一	総務部長
六人部 昭典	文学部美学美術史学科主任	細井 起次	財務部長
秋田 修	生活科学部食生活科学科主任	奥島 尚樹	大学事務部長
榎 究	生活科学部生活環境学科主任	海野 政司	短期大学事務部長
本間 洋子	生活科学部生活文化学科主任	玉置 美佐子	中学校高等学校事務室部長
数野 昌三	人間社会学部人間社会学科主任	鍛島 康子	(一社)教育文化振興実践桜会理事長
松浦 常夫	人間社会学部現代社会学科主任	大川 徳子	(一社)教育文化振興実践桜会役員
佐藤 辰雄	日本語コミュニケーション学科主任	田中 逸子	(一社)教育文化振興実践桜会役員
遠藤 光	英語コミュニケーション学科主任	飯尾 美甫	(一社)教育文化振興実践桜会役員
寺出 浩司	生活福祉学科主任	横田 紀代子	(一社)教育文化振興実践桜会役員
芦川 修貳	食物栄養学科主任	池田 章子	ブルドックソース(株)代表取締役社長
武田 忠利	中学校高等学校副校長	井原 徹	理事長
田中 勉	高等学校教頭	宮原 幹二	常務理事
鈴木 真知子	中学校教頭	吉益 信治	弁護士

平成 23 年度決算承認に係る評議員会開催日（平成 24 年 5 月 25 日）までの評議員異動状況

(平成 24 年 3 月 31 日退任)

六人部 昭典	文学部美学美術史学科主任	武田 忠利	中学校高等学校副校長
榎 究	生活科学部生活環境学科主任	藤代 洋一	総務部長
本間 洋子	生活科学部生活文化学科主任	細井 起次	財務部長
遠藤 光	英語コミュニケーション学科主任	鍛島 康子	(一社)教育文化振興実践桜会理事長
寺出 浩司	生活福祉学科主任		

(平成 24 年 4 月 1 日就任)

児島(近藤) 薫	美学美術史学科主任	依田 泰	中学校教諭
高田 典夫	生活科学部生活環境学科主任	後藤 邦夫	総務部長
富田 洋三	生活科学部生活文化学科教授	森 洋治	財務部長
廣井(廣川) 多鶴子	人間社会学部現代社会学科主任	岡部 公志	大学・短期大学後援会会長
日野 一男	英語コミュニケーション学科教授	安岡 真理子	中高父母の会副会長
井上 一雄	高等学校教諭		

(平成 24 年 5 月 24 日退任)

田中 逸子	(一社)教育文化振興実践桜会役員	横田 紀代子	(一社)教育文化振興実践桜会役員
飯尾 美甫	(一社)教育文化振興実践桜会役員		

(平成 24 年 5 月 25 日就任)

浦上 淳子	(一社)教育文化振興実践桜会理事長	島尾 光代	(一社)教育文化振興実践桜会役員
倉沢 蒼生子	(一社)教育文化振興実践桜会役員	二村 朋世	(一社)教育文化振興実践桜会役員

8 教職員数

(平成23年5月1日現在) (単位:人)

[大学・短期大学専任教員数及び助手、副手数]

		学 長	教 授	准 教 授	専 任 講 師	助 教	合 計	助 手	副 手	
大 学	学長	1					1			
	文学部	国文学科		9	1	1	1	12	2	
		英文学科		7	2	2	1	12	2	
		美学美術史学科		8	3		1	12	3	
		文芸資料研究所		1				1		
	生活科学部	食生活科学科		15	1	1	1	18	18	
		生活環境学科		9	1		1	11	8	
		生活文化学科		8	3	2	1	14	4	
	人間社会学部	人間社会学科		6	3	1		10	3	
		現代社会学科		5	3	1		9		
	教職・図書館学課程			4	1			5	1	
	外国語教育研究センター			2		1		3	1	
	博物館学課程						1	1		
	小計		1	74	18	9	7	109	42	0
短 期 大 学	学長	(1)					(1)			
	日本語コミュニケーション学科		3	4			7		2	
	英語コミュニケーション学科		5	3			8		2	
	生活福祉学科		2	1			3		1	
	食物栄養学科		6	1			7	6		
	教職・図書館学課程		2	1			3			
	短期大学教育研究センター							1		
小計		(1)	18	10	0	0	28	7	5	
教員・助手・副手 計		1	92	28	9	7	137	49	5	

(注)学長は大学・短期大学を兼務。

大学、短期大学の助手には、教育研究系契約職員(助手)を含む。

人間社会学部の助手は、人間社会学科、現代社会学科を兼ねる。

[中学校・高等学校教員及び助手数]

	校長	副校長	教頭	教諭	実習助手	合計
高等学校	1	1	1	45	2	50
中学校			1	39		40
小計	1	1	2	84	2	90

(注)校長及び副校長は、高等学校・中学校を兼務。

[職員数]

	事務系	管理系	契約等	合計
職員数	88	1	22	111

以上、教職員数総合計 392人

9 関係する会社

実践楷企画株式会社

- ①所在地 〒191-0002 東京都日野市新町 1-24-7
- ②代表取締役 長島 敏市
- ③設立年月日 平成 13 年 3 月 1 日（平成 22 年 10 月 1 日社名変更）
- ④従業員数 74 名
- ⑤主な事業 建物等の清掃・警備・保守、清涼飲料水等の販売、文房具等販売、教材・書籍等の印刷・販売、文化教室・各種講演会・イベント等の運営、一般労働者派遣業、損害保険代理店業務、その他
- ⑥資本金額 2,000 万円
- ⑦出資割合 100%
- ⑧売上高 42,189 万円

II 平成 23 年（2011 年）度事業の概要

実践女子学園及び設置学校が平成 23 年度に行った主要な事業は、以下のとおりです。

1 教育事業の推進

本学園が設置する各学校では、多様な教育展開の構想を一つひとつ具体化し実現すべく本年度も積極的に取り組みました。

〔大学・大学院、短期大学〕

大学では、文学部（国文学科、英文学科、美学美術史学科）、生活科学部（食生活科学科管理栄養士専攻、食物科学専攻、生活環境学科、生活文化学科生活文化専攻、幼児保育専攻）及び人間社会学部（人間社会学科、現代社会学科）の 3 学部 8 学科 4 専攻において学生を受け入れ授業を行いました。

展開する授業科目は、共通教育科目と専門科目に大別されています。共通教育科目は、「実践スタンダード科目」、「実践アドバンスト科目」及び「教養教育科目」で編成され、205 科目、575 コマが開講しました。一方、専門科目は学部学科毎の教育方針（カリキュラム編成方針）に基づき講義、演習、実習科目等によって編成されおり、平成 23 年度は全学部学科の専門科目は、年間 875 科目、1,621 コマを開講し、学生は、履修モデル等に従って履修しました。

また、『講義概要』並びに Web により、全ての授業科目について①各授業のテーマ・目標、②各期 15 週にわたる授業の内容、③準備学習、④テキスト・教材、⑤成績評価の方法・基準、⑥参考書、⑦注意事項等、履修上の基本情報を学生に提供しました。

大学院では、文学研究科（国文学専攻、英文学専攻、美術史学専攻）、生活科学研究科（食物栄養学専攻、生活環境学専攻）、人間社会研究科（人間社会専攻）の 3 研究科 6 専攻において学生を受け入れ、授業並びに研究指導を行いました。

短期大学では、日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科、食物栄養学科の 3 学科において 1, 2 年次の授業を、生活福祉学科では 2 年次の授業を行いました。大学と同様、共通教育科目と専門科目によって授業科目を編成し、共通教育科目は年間 74 科目、124 コマを開講し、専門科目は各学科の教育方針（カリキュラム編成方針）の下、年間 269 科目、389 コマの授業を開講しました。

(1) 文学研究科美術史学専攻の博士後期課程の開設

大学院文学研究科美術史学専攻は、平成 23 年 4 月に修士課程から博士課程（前期、後期）に課程変更を行い、初年度の博士後期課程への入学志願者は 2 名、入学者は 1 名でした。

(2) 人間社会学部現代社会学科の開設

平成 23 年 4 月に人間社会学部に新学科「現代社会学科（入学定員 100 名）」を開設し人間社会学科（入学定員 100 名）とともに 2 学科体制となりました。入試は、人間社会学部として一括入試（募集人員 200 名）を行い、入学者は 218 名となりました。人間社会学部では、1 年次 218 名に対して、2 年目からの所属学科の振り分けに関する説明会を 4 月から 12 月までに複数回行い、2 月末に行った最終希望調査の結果によって、平成 24 年度の 2 年次の人数は、人間社会学科 100 名、現代社会学科 118 名となりました。

(3) 生活科学部生活文化学科の小学校教諭免許課程の開設

生活科学部生活文化学科幼児保育専攻では、平成 23 年 4 月から小学校教諭免許課程を開設しました。これにより、同専攻において、小学校及び幼稚園の教諭免許、保育士の資格が

取得できることになりました。平成 23 年度生活文化学科幼児保育専攻入学者 47 名のうち、小学校教諭免許課程の履修者は 5 名でした。

(4) 学部・学科の改組・改編の検討推進

日野キャンパスの学部・学科改組を含む新たな展開に向けた基礎調査を外部シンクタンクに委託し、新たな学科カリキュラム案の提案を受けました。

また、短期大学食物栄養学科の 4 年制への移行方針を固めるとともに、生活科学部生活文化学科幼児保育専攻の将来構想などについても協議を始めました。

(5) 大学・短期大学教育研究センターの活動

大学教育研究センターでは、共通教育科目の運営・点検・改善に係る作業を開始するとともに、学士課程教育の充実・発展に取り組みました。

また、短期大学教育研究センターでは、平成 26 年 4 月から渋谷キャンパスで開講する共通教育科目について、大学への編入希望学生にも配慮したカリキュラム改革と充実に向けた検討を行いました。

(6) 新共通教育「実践スタンダード」の推進

大学では、平成 21 年度から新共通教育として発足した「実践スタンダード」の 3 年目として、初年次教育、キャリア教育、外国語教育及び情報リテラシー教育の一層の充実を図り展開しました。特に、キャリア教育の推進においては、平成 23 年 4 月の大学設置基準の一部改正に盛り込まれている「社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培う」方針によって、本学における 2 年間の教育実績を基に実効ある教育の展開を行いました。

短期大学では、「実践キャリアプランニング」の授業で S P I (Synthetic Personality Inventory) 小テストを毎時間行い、また、平成 23 年度から実践アドバンスト科目のキャリア教育科目として新たに「キャリア・スキルズ」を開講しました。

(7) 特別事業計画の推進

大学では、学部・学科・課程の教育改善に資する特別事業計画に基づき、「生活科学部教育への導入と展開」をはじめとして 5 件の活動を行いました。

短期大学では、日本語コミュニケーション学科による「ビジネスコミュニケーションにおける“話す力”のスキルアップ」をはじめとする 7 件の特別事業計画を予定通り実施しました。

(8) 教学体制の整備

[大学]

大学では、平成 26 年の日野と渋谷の 2 拠点化を踏まえた教学体制の整備に取り組みました。

①2 拠点化を視野に入れたカリキュラム見直し、開講科目・コマ数の整理と再編成

大学教育研究センターでは共通教育科目を、各学部学科では専門教育に関して、開講コマ数の 10~15%減を目標に、科目およびコマの削減を進めました。共通教育科目については削減案の審議を行い承認されました。

②2 拠点化を視野に入れた意思決定の在り方、組織の見直し

意思決定の在り方、組織の改編及び付置の変更などについて、部長会プロジェクトにおいて検討を行い、常任理事会に提案しました。

〔短期大学〕

短期大学では、開講コマの削減を専門教育科目は各学科で、共通教育科目については、短大教育研究センターを中心に行いました。また、短大教育研究センター、教職課程、図書館学課程の専任教員の運営組織について見直しを行いました。

(9) 教職課程、図書館学課程、博物館学課程の充実

〔大学〕

①教職課程

平成 22 年度入学者から行っている「履修カルテ」を用いた指導を徹底しました。また、介護等体験の単位化や、アドバンスト科目である教職研究の導入などにより、教職課程の改善に取り組みました。

②図書館学課程

平成 23 年度より、図書館学省令科目改定に沿った新たな科目で、授業を開始しました。

③博物館学課程

学芸員養成の科目改正に対応するカリキュラムの見直しを行い、平成 24 年度から実施できるよう、文部科学省に届出を行いました。

〔短期大学〕

教職課程では、より実践的な栄養教諭を育成するために、教育実習に向けた事前指導を十分に行い、さらに本学で作成した「履修カルテ」により学生自身に自分の問題点等を認識させ、自らが改善できるように徹底した指導を行いました。

図書館学課程では、図書館学省令科目改定により平成 24 年 4 月から開設する新カリキュラムに移行するため、文部科学省への手続きを行いました。また、司書育成の目的を再確認するとともに、カリキュラム内容の点検を併せて行いました。

(10) 自己点検・自己評価の推進

平成 23 年度中に実践女子大学自己点検・評価委員会及び実践女子大学自己点検・評価運営委員会を開催し、また、3 月には大学基準協会から講師を招いて必要事項の確認を行い、平成 25 年度の第三者評価の実施に向けて、具体的な作業に着手しました。

また、短期大学においても、自己評価委員会で平成 25 年(2013 年)度の第三者評価に向けた自己点検・評価報告書の作成に向けた計画を立て、組織的な準備に入りました。

(11) F D (Faculty Development) 活動の積極的な推進

〔大学〕

平成 16 年度から実施している学生による授業評価アンケートについて、今年度は、報告書にまとめて図書館に設置し、アンケート結果を学生にフィードバックしました。

大学・短期大学合同の F D 研修会は、平成 24 年 3 月 1 日に同志社大学の圓月勝博先生(日本私立大学連盟教育研究委員会 F D 推進ワークショップ運営委員会委員長)による講演「授業評価から教育の質保証へ」を実施しました。

〔短期大学〕

前期・後期の各期末に学生による授業評価アンケート、学生アンケート結果に基づく教員アンケートを「報告書」にまとめ、短期大学全教員に配布しました。短期大学教員対象の F D 講習会として、実践スタンダード科目「実践キャリアプランニング」担当教員が講師となって授業研究の講演を行い意見交換をしました。

(12) 国立美術館及び博物館キャンパスメンバーズ制度の拡大

国立美術館・国立博物館の会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」、「国立博物館キャンパスメンバーズ」を活用して、平成 23 年度は延べ 1,715 名（平成 22 年度は大学生、短大生合わせて延べ 1,476 名）がこの制度を利用しました。

(13) 保護者宛て学生の成績表送付

大学、短期大学ともに、平成 24 年度から全保護者に学生成績を送付する予定としていますが、大学では平成 23 年 10 月から 1 年次生と 4 年次生の保護者には 1 年前倒しで送付しました。

(14) 保護者への対応について

学生の保護者を対象に、学科担任による修学面談、キャリアセンターによる就職支援プログラムを中心とする「修学・就職支援フェア」を平成 23 年 7 月に実施し、大学では 395 名、短期大学では 61 名の保護者・学生が参加しました。

キャリアセンターが実施している父母向けセミナーも 5 回目を迎え、本年度は「ご父母のためのセミナー“就職活動の現状とキャリアセンターの支援について”」を平成 24 年 3 月 10 日に実施しました。

(15) 高大連携の推進

平成 23 年度も、実践女子学園高等学校の一年生を対象としたキャンパス見学会を実施いたしました。2 拠点化を踏まえ、実践女子学園高等学校との連携強化を図るべく、双方から教員が出て話し合いを行う場を設けることが合意されています。

(16) キャリア教育の推進

〔大学〕

正課内外においてキャリア教育に活用する「実践インターンシップルーム」を通して、より実践的なキャリア形成支援の展開を図りました。また、オープン講座等で、企業から外部講師を招聘して、社会的なテーマについて深く掘り下げた教育を展開して、企業の最新動向を直接学ぶ機会を増やしました。「キャリアデザイン a」、「同 b」の内容を一新するとともに、オープン講座にキャリアセンタープログラム相当の内容を授業に構成した「オープン講座 c」も実施しました。

〔短期大学〕

実践スタンダード科目の「実践キャリアプランニング」の授業で、不得意分野を減らせるように S P I 対策の強化を行いました。また、就職支援強化のための講座として実践アドバンスト科目の「キャリアデザイン」と連動させる形で、新たに「キャリア・スキルズ」を平成 23 年度から正規科目として開講し、キャリア教育科目を更に充実させました。

(17) 教育情報の公表

教育情報の公表が義務化に対応して、大学・短期大学の詳細な情報を公表しました。

〔中学校・高等学校〕

(1) 実践スタンダード「3+1」の推進と深化

「学力改革」を中心に「キャリア教育」、「感性表現教育」及び「国際交流教育」の三つを

本校の教育の柱とし、更に、生徒自らのライフデザインを実現し得る高い学力の育成を図り、大幅な進学実績の向上を実現できました。

(2) スタンダード実践クラス（一般学級：「SJC」）の教育の充実

中学入学時からきめ細やかな指導を行うため、中学 1 年次における少人数編成クラスを継続し、生活・学習習慣の確立を図りました。中学 3 年生では、英語における少人数編成クラスを継続することで学力の向上を目指し、また、中学 1 年生から 3 年生のより高い英語力をつけたい生徒に対して、ネイティブ教員によるアドバンストイングリッシュクラスを展開しました。

(3) 中学校グローバルスタディーズクラス（国際学級：「GSC」）の教育の充実

中学校では、英語、国語、数学の 3 教科で習熟度別クラスとして、授業を行いました。特に英語では、1 学年 3 クラスの習熟度別クラスとし、全生徒にきめ細かい教育指導を行いました。また、中学 1 年次では、社会・理科の 2 教科で少人数クラス編成を行い、学力の定着を確実なものにしました。

(4) 高等学校グローバルスタディーズクラス（国際学級「GSC」）の教育

高校 1 年の 7 月から 9 月まで、オーストラリアの現地校で 3 ヶ月間の短期留学を行い、国際性を養う教育を行いました。留学経験により、実践的な英語力を身につけただけでなく、異文化に直接触れることで人間的にも大きな成長の跡が見られました。また、高校 2 年より卒業時の希望進路に向けて指導を展開する準備を進めました。

(5) 中高一貫教育の推進

平成 24 年度より中学校の新指導要領が実施されることから、新指導要領に基づく教育課程の円滑な実施に向けた検討と準備を行いました。また、中学生の場合は学力の定着、高校生については進学指導の充実を図り、国立大学・私立難関大学への進学実現を目標とした「学力改革」を進めて、中高一貫校に相応しい生徒の資質の養成と学力向上に取り組みました。

(6) 教員研修の充実

教育全般に係る教員相互の指導力向上のために、教科毎の研修実施など、教員研修の充実を図りました。また、生徒による授業評価を実施し、それを踏まえた授業力の向上を推進しました。

(7) 渋谷校地再開発に伴う教育活動の維持と円滑な対応

中学校高等学校体育館が完成し、12 月より利用が開始されました。その間の中高教育活動の維持に努め、円滑な移転を実施しました。また、プロムナード工事も 12 月末に完了しました。

(8) 安全安心教育の推進

生徒の命を尊重し、心と身体の健康のための取り組みを行い、研修会を継続するとともに、生徒も救急事故発生時に対応できるように指導を強化しました。また、東日本大震災の時の経験を活かし、防災意識を高める避難訓練を実施するとともに、より安全な避難方法、下校のさせ方などについて検討を進めました。

(9) 高大連携の実施と拡充

平成 26 年の大学・短期大学の渋谷校地展開を視野に入れ、実践女子大学・同短期大学との連携を強化すること、國學院大學との連携強化、及び生徒の受講奨励と単位の認定に努めました。

2 教育研究活動支援の推進

[大学・短期大学]

大学・短期大学の教育研究活動に係る競争的資金への応募、外部資金獲得のための情報収集と提供等の事務支援体制を整えています。また、大学図書館は、諸施策を以て教育研究活動を支援しました。

(1) 教育研究改革の支援と推進

文部科学省の大学教育・学生支援推進事業として推進している「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」は、3年目の取り組みを行い、卒業生の協力によるDVDや冊子などのキャリア教育補助教材を作成し、3ヵ年の活動報告書を作成しました。また、短期大学で展開している「学生と共に推進する地域食育活動プログラム」及び「学習ポートフォリオを活用したキャリア形成支援の重層的展開」についても、主要な事業に位置付けて継続実施しました。

(2) 大学・短期大学図書館による教育研究支援推進

1) 2拠点化に向けた図書館運用計画

①研究室図書の遡及入力

蔵書データ整備3年計画の第1期として、図書館システム導入(平成6年7月)以前に購入した研究室資料データ19,000冊を図書館システム(E-Cats)に登録しました。

②重複資料等の整理

大学・短期大学図書資料のうち、重複所蔵の資料等3,700冊の除籍を行いました。

2) 図書館利用活性化計画

①学生選書ツアーの実施

第2回学生選書ツアーを実施し、選ばれた132冊の図書を図書館内に展示するとともにし、貸出を行いました。また、今年度より、「選書紹介リーフレット」を2回発行し、学生の利用促進の一助として配布しました。

②学生スタッフの活用

初年次教育「実践入門セミナー」の図書館案内スタッフ(図書館案内サポーター)として、学生29名が参加しました。

③図書館文化講演会の開催

10月27日に岩崎夏海氏を招いて、「マネジメントの正しい読み方」をテーマに第5回講演会を実施し、参加者は385名でした。講演会終了後一般来場者6名の参加により、図書館見学ツアーを行いました。

(3) 共同研究・受託研究

受託研究規程の制定を行い、さらに共同研究規程の整備に向けて検討を開始しました。

平成23年度の外部から導入した研究資金は、寄付研究が4件、受託研究が新規6件、継続2件、共同研究が継続1件でした。

[中学校高等学校]

中学校高等学校では、中高図書館の活動と利用の活性化に取り組みました。

①メディアセンターの利用拡大

メディアセンターを利用する生徒は年々増加し、館外貸出冊数も増加しました。本年も、キャリア学習室に設置されている情報機器を、教科学習や総合学習、クエストエデュケーションの準備などに積極的に利用しました。

②図書委員会の活動

中高の図書委員会の活動として、年に2回「らいぶらりー」を発行しました。また、中高図書館に入れる書籍の選定に関わるほか、新刊図書を紹介などの広報活動を積極的に行いました。また、校内で朗読会を開催しました。

ボランティア活動の一つとして青山こどもの城で、幼児・児童を対象とする「読み聞かせ」の活動を行うことで、生徒たちは手ごたえを感じ、自分自身の成長を実感しているので、本年も積極的に実施しました。

[学園]

プロジェクト研究の推進

学園の教職員の自主的研究及び学際的共同研究の推進・活性化を図るべく、複数の学部・学科・事務職員又は学外者が一定の期間集中して共同して研究を進める組織として、プロジェクト研究所を設置しました。平成23年度は6月30日まで募集を行い、11件の応募があり、7件の研究所を採択しました。今後、本学園の研究活動組織として、学内外に積極的に広報し活動内容を公表します。

また、平成24年度の募集も平成23年11月に行い、応募3件中1件の研究所を採択しました。

3 学生・生徒支援の推進

大学・短期大学学生及び中学校高等学校生徒のキャリア教育及び生活支援のために、以下の課題に重点的に取り組みました。

(1) キャリア教育と「文部科学省大学教育・学生支援推進事業」キャリア支援との連携推進

キャリアセンターでは、正課科目であるキャリア教育と連動し、学生の就業意識向上、社会に向ける視野拡大を図るため、下記の取り組みを行いました。

①学内で実施する「仕事体験」の実施

一般職採用が減少する中、一般職以外の職種（特に営業職）に対する学生の認識不足や苦手意識を払拭することを目的として、企業の方を招へいし、夏期休業期間に学内で「営業職」と「コンサルティング職」の2職種の体験講座を行いました。

②学外で実施する「一日企業見学会」の実施

学生の進路選択拡大を図るため、馴染みのない業界や未知の企業等12社の「働く現場」を見聞する一日企業見学会を夏期休業期間中に実施しました。

[大学]

平成21年度から3年間にわたって展開した「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」の活動をまとめた「実践アラムナイ報告書」を発行しました。報告書では、3年間の事業の分析・考察を行い、今後は大学の事業として継続してさらに高度な展開につなげて行きます

[短期大学]

「学習ポートフォリオを活用したキャリア形成支援の重層的展開」事業において、就職システム（ジョブハンター）と連動させた「データによる学習ポートフォリオ」の稼働率を50%にまで引き上げ、有効利用を行えるようにしました。今後は、教学との連携を強化し、より効果的な活用を目指します。

[中学校高等学校]

中高6カ年間のキャリア教育で進路観、職業観の育成を図り、進路・学習意欲の向上に努めました。また、クエストエデュケーションプログラムや「25年後の世界と私」（ライフデザイン）の取り組みを通して、課題解決能力を中心とした21世紀の人間力を養いました。同時に「スペシャリストに学ぶ」等のキャリアガイダンスや「インターンシップ」で地域、企業、大学、卒業生との連携を強めました。

(2) 本学独自の奨学金制度による修学困難学生・生徒への支援推進

本学園が平成19年度に開始した「教職員奨学資金」を継続して資金の拡充を図り、修学困難な大学生2名（前期2名）、短大生1名（後期）、中高生では1名（高校生3期1名）に奨学金を給付しました。

また、下田奨学金、戸野原須賀子奨学資金、学長賞・校長賞を授与しました。

(3) 学生が運営する「さくらかふえ」の設置

大学キャンパス内に、平成23年10月生活科学部の学生が中心となって運営する喫茶店「さくらかふえ」がオープンしました。メニューの考案から在庫管理、衛生管理、店舗の内装などを学生が担当しています。

(4) ボランティア活動支援の推進

[大学]

大学では、ネットワーク多摩の「お姉さん先生」、日野市教育委員会からの要請対応、日野市各種イベントへの学生派遣等を行いました。

[短期大学]

ボランティア活動団体からのポスター等を掲示して、学生のボランティア参加を積極的に奨励するとともに、日野市子育て支援センターとの連携の下で学生ボランティアを派遣しています。

[中学校高等学校]

日本青少年赤十字活動に学校全体で加盟し、ボランティア教育を積極的に推進しました。また図書委員会の生徒による幼児・児童向け読み聞かせ、中高合唱部による慰問演奏等、日々の委員会活動・部活動を通じて積極的に持てる力を社会に還元する取り組みを支援しました。

(5) 東日本大震災の被災学生支援

学園は、東北地方太平洋沖地震発生日及びその後に迅速な対応を行いました。また、被災学生支援として4つの柱（修学支援、経済的支援、心の支援、学生生活・ボランティア支援）を立てて1年間を通して対応しました。

特に被災地域の新生並びに在学生の修学上、生活上の相談に応じるため、相談窓口と

なる「被災学生特別支援室」を設け、前キャリアセンター部長と短期大学事務職員（平成23年4月からキャリアセンターに異動）の2名を担当者として配置しました。

【主な取り組み】

大学、短期大学では、平成23年度入学式や授業開始を延期することも検討しましたが、被災地域出身学生に対する支援体制を十分に整えた上で、当初予定どおりに行うことを決定しました。入学式は計画停電や余震など不測の事態を考慮して新入生のみの上場として、大学は4月3日、短大は4月4日に挙行了しました。授業開始に際しては、履修登録期間の延長、教科書の提供等の措置をとりました。

被災地域出身学生に対する経済的支援においては、学費減免の特別措置、被災者支援奨学金、被災者生活緊急給付金及び修学支援資金等の制度を設け、奨学金等の給付措置をとりました。また、授業の空き時間等に学内の各部署でアルバイトができるJOB MATEの制度を設けて、物心両面からの支援を行い、延べ21名の学生が活用しました。

4 入試・広報の推進

(1) 中長期を見据えた広報戦略

卒業生6万人や在学学生及びその父母、元教職員など学園関係者に対し、学園の将来構想や設置学校の様々な活動、学生・生徒・卒業生などの活躍ぶりを紹介・広報する新学園広報誌「桜むすび」を平成23年4月に創刊しました。

(2) 漫画『きらり うたこ』、しおり「源氏物語シリーズ」によるブランド力形成

学祖下田先生のエピソードに材を取った漫画『きらり うたこ』を平成23年3月に1万部刊行し、平成23年度の学園各学校の在学学生、入学生に配布して学祖教育、校祖学習に活用するとともに、1,000部を市販いたしました。

また、平成22年度から書店レジ置きを行っている「源氏物語のしおり」は、平成23年度夏版から新たに1社を加えて3社の書店レジで配布しました。

(3) 2拠点化、大学・短期大学の改組に関する計画的広報

パブリックリレーションズに関する助言を受けながら、渋谷大学短期大学棟の地鎮祭を発信するなど、創立120周年記念事業や大学・短期大学の2拠点展開の戦略的広報を開始しました。

(4) 大学、短期大学の地方入試実施に伴う実践フェスタの開催

入試センターとキャリアセンターが中心となって、実践フェスタ（JISSEN フェスタ）を長野、新潟、宇都宮、仙台、高崎及び静岡で7月から8月に実施し、130名の参加者を得ました。フェスタ開催の告知を中心に、その地方の広報を強化した結果、地方入試志願者が166名増加しました

(5) 中学校高等学校の広報活動

平成24年度入試・日程・時間の見直しを進め、より受験しやすい時程への変更を進めました。効果的な広報手段として、ホームページのタイムリーな更新を実施するとともに、来年度に向けて、大幅なリニューアルをするべく準備を進めました。

平成24年度入試に向けての学校説明会は、毎回テーマを定めて内容の進化を図り本校志願者の定着を実現しました。また、GSC説明会や帰国生対象説明会は、帰国者の多い7月に実施し、受験生及び保護者が参加しやすい環境を作りました。

5 創立 120 周年整備事業の推進

【建設関係】

平成 23 年 1 月に着工した中学校高等学校新体育館は平成 23 年 12 月に完成し、12 月 7 日に竣工式を行い、12 月中旬から使用開始しました。

新体育館の完成により、旧体育館（記念体育館、第 2 体育館）の解体を行い、平成 24 年 3 月 2 日に大学短期大学棟地鎮祭を行い、3 月 14 日に着工しました。

また、1 期整備計画関連事業の実践桜会会館の建設についても平成 24 年 1 月に竣工し、旧桜会会館の建物は平成 24 年 3 月末までにほぼ解体が終了しました。

【120 周年記念 1 期整備計画募金】

平成 23 年 4 月から募金開始を予定していた創立 120 周年記念 1 期整備計画募金は、東日本大震災の影響を考慮して募金案内送付を 3 カ月遅らせ、平成 23 年 7 月から卒業生をはじめとする関係者への募金依頼を開始しました。目標総額 4 億円に対し、平成 24 年 3 月 31 日現在の申込金額 1 億 9,441 万円に達しました。

＜ 創立 120 周年整備事業計画の概要 ＞

○ 整備事業の基本的考え方

創立 120 周年を平成 31 年（2019 年）5 月に迎えるにあたり、学園としての社会的責任を果たすため、教育・研究体制を整えるとともに、「長期的展望に立脚した渋谷校地と日野大坂上校地の 2 拠点化」を大きな柱として、整備事業に取り組む。

○ 整備事業の計画項目

【創立 120 周年整備事業 1 期渋谷校地整備計画】

- ① 中学校高等学校新体育館の建設[第 1 期計画事業]（平成 22 年度～23 年度）
- ② 大学・短期大学棟の建設[第 1 期計画事業]（平成 23 年度～25 年度）

【創立 120 周年整備事業 2 期大坂上校地・神明校地整備計画（仮称）】

- ③ 日野大坂上校地・神明校地の整備[第 2 期計画事業]（平成 26 年度～27 年度）

【創立 120 周年整備事業募金】

- ④ 創立 120 周年整備事業募金の実施（平成 22 年度～26 年度）

○ 1 期建設関係記念事業に係わる事業費総額と資金計画

① 事業費総額	87 億円
② 資金計画	
施設設備維持引当特定資産	26 億円
第 2 号基本金引当資産	29 億円
長期借入金	28 億円
寄付金	4 億円
（合計）	87 億円

6 国際交流の推進

〔大学〕

中国・中国伝媒大学、韓国・檀国大学校及びオランダ・オランダ国立南大学から留学生を受入れ、韓国・檀国大学校及びオランダ・オランダ国立南大学に留学生を派遣しました。

〔短期大学〕

英語コミュニケーション学科の専門科目として実施している、オーストラリア・ストッツカレッジの春期語学研修は、今年度も 1 年生 11 名が参加し、2 月末に帰国しました。平成 23 年度からスタートしたストッツカレッジへの半期留学については、希望者はありませんでした。

[中学校高等学校]

本校との教育交流協定を結んでいる、タイ、ドイツ、イギリス、中国の高校との短期交換留学、ニュージーランドへの短期派遣留学を実施しました。さらに、ハワイ、ニュージーランド、オーストラリアへの語学研修を実施し、85名の生徒が参加しました。

また、GSCの高校1年生2名が、第5回全日本高校模擬国連大会に初参加して優秀賞を受賞し、平成24年5月にニューヨークで開催される全米大会に日本代表団の一員として派遣されることとなりました。

7 社会貢献・地域連携等の推進

(1) 大学・短期大学公開講座の実施

各学部・学科の特色を生かした公開講座を実施して、社会貢献並びに地域の生涯学習の推進に寄与しました。

公開市民講座 テーマ	日時	会場
百閒先生面白帖－龍之介戯画と多田基あて書簡－	展覧会 5月23日～6月19日 講演会：6月4日、6月11日	大坂上キャンパス 香雪記念館大教室
美術史へのいざない－実践女子大学美学美術史学科とブリヂストン美術館のコラボレーション5	第1回 6月19日 第2回 6月26日 第3回 7月24日	ブリヂストン美術館ホール
草木染の色と技法－天然染料の歴史とその特徴－	講演と実習 10月22日	大坂上キャンパス
エコロジーとライフスタイル－脱エネルギー大量消費社会の構築に向けて－	11月19日	大坂上キャンパス 香雪記念館大教室
つながりの文化と福祉のまちづくり	11月19日	神明キャンパス メモリアルカフェ

(2) 生涯学習センターによる生涯学習の推進

本年度も特別講座として、7年間続く本学・田島眞教授の食品に関する講座を中心に13講座を開講し、270名余人が受講しました。

一般の講座の受講状況は、7ジャンル150講座を開講し、その内、132講座を開講して、2,164名が受講、1講座当たりの平均受講者数は16名でした。東日本大震災の影響で受講者が減ることが懸念されましたが、例年とほぼ同様の受講者数を確保できました。

また、平成21年度後期から実施している作品発表展のミニ版「ロビー作品展」を2か月交代で開催しました。館内に講座作品を展示することにより、受講生の意欲を高めるとともに、新規の受講生獲得にもつながる企画となっています。1,2月：絵手紙、3,4月：ハーダンガー、5,6月：書のすすめ、7,8月：デッサン、9,10月：カリグラフィー、11,12月：色鉛筆等の作品展を行いました。

(3) 香雪記念資料館による企画展示

本年度は以下の企画展を開催し、入館者数は2,339名に達しました。

- ①「下田歌子展－歌子と和歌－」（4/3～4/29）
- ②「百閒先生面白帖－龍之介戯画と多田基あて書簡－」（5/23～6/19）
- ③「春夏秋冬－17の風景－」（7/4～7/29・7/31・8/14）
- ④「中国美術入門－漢から元まで－」（7/6～7/29・7/31・8/14）

- ⑤「源氏物語の転生ーさまざまな形と姿をもとめてー」(10/3～10/23)
- ⑥「江戸の文雅ー近世女性画家とその周辺ー」(11/7～12/9)
- ⑦「中国美術入門ー近世の書画ー」(1/10～1/27)

以上、年間開館日数 117 日。

また、当館の展示室を利用して、以下の展覧会が開催されました。

「鋏形蕙斎「鳥獣略画図」版木展 食の風景ー近世の「食」その 2ー」(11/21～11/30)

(4) (社)ネットワーク多摩の活動への参画

(社)学術・文化・産業ネットワーク多摩との単位互換協定に基づき、25 校の協定校と単位互換事業を行い、短期大学から 3 名の学生が他大学の授業を受講しました。また、学生ボランティア事業に学生が参加しました。

(5) 日野市との連携

平成 23 年度の日野市等との連携事業として次のとおり行いました。

- ①「日野市高齢者見守り支援ネットワークシンポジウム」(主催 日野市健康福祉部)
コーディネーター 実践女子短期大学 生活福祉学科 藺田碩哉教授
実施日 平成 23 年 5 月 28 日
- ②食育推進委託事業 「日野市における食育の推進」(委託者 日野市教育委員会)
研究担当代表者 実践女子短期大学 食物栄養学科 白尾美佳教授
契約期間 平成 23 年 9 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
- ③短大第 10 回かたちふれあい展(後援 日野市、日野市教育委員会)
実施期間 10 月 10 日～11 月 18 日
- ④「平成 23 年度 養育家庭体験発表会」(主催 日野市・東京都八王子児童相談所)
開催日 平成 23 年 10 月 20 日 会場提供 (実践女子大学香雪記念館)
- ⑤日野市立図書館主催の展示会(平成 23 年 11 月 12 日から 11 月 30 日) 大学図書館
- ⑥短大生活福祉学科公開講座「つながりの文化と福祉のまちづくり」
開催日 平成 23 年 11 月 19 日 実践女子短期大学
- ⑦「震災セミナー 3・11 あの日の君を忘れない」(主催 日野消防署他)
開催日 平成 24 年 2 月 22 日 会場提供 (実践女子大学香雪記念館)
- ⑧日野市三世代がよりそうくらしに関する市民意識調査
協定締結、市民意識調査の実施
- ⑨施設設備の開放 短期大学テニスコート 2 面を日曜・祝日に一般市民に開放
(主管 日野市教育委員会教育部)

(6) 特別支援学校の現場実習生受け入れ

日野市七生特別支援学校の現場実習(インターンシップ)生の受け入れ要請はありませんでしたが、平成 22 年度までの現場実習生の受け入れの成果として、現場実習生のうち 1 名を平成 23 年 4 月から契約職員として学園で採用し、配属先の総務部の業務をはじめ、他部署での業務補助を行いました。

(7) 立川国際中等教育学校の現場実習生受け入れ

立川国際中等教育学校から中学 3 年生及び 2 年生の現場実習生の受入れの要請があり、6 月に 3 年生 2 名、11 月に 2 年生 3 名を受け入れました。

8 卒業生向け活動の推進

新学園広報誌「桜むすび」創刊号を卒業生 6 万人に送り、母校との絆を深めました。

また、第 12 回を迎えるホームカミングデーは、渋谷キャンパスでは 10 月 30 日に、日野大坂上キャンパスでは 11 月 12 日にそれぞれ開催しました。大坂上キャンパスでは、漫画『きらり うたこ』の作者の牧野和子氏、企画の古藤黎子氏をお招きして編集エピソードを披露いただきました。

平成 22 年度卒業式を東日本大震災の影響で卒業式を中止したため、大学、短期大学の卒業生を対象に、平成 24 年 3 月 17 日に「1 年後の卒業式」を開催しました。700 余名の卒業生と 100 名近い父母の出席がありました。

9 建学の精神の高揚—創立者下田歌子顕彰事業

創立者下田歌子の建学の精神を高揚すべく、創立者を顕彰する事業や諸行事を行いました。

(1) 岐阜県恵那市先人顕彰事業「下田歌子賞」の推進

創立者下田歌子の業績を顕彰して、本学園、岐阜県恵那市及び恵那市先人顕彰事業「下田歌子賞」実行委員会主催、PHP 総合研究所共催、東京都日野市後援による「下田歌子賞」は、「先人に学ぶ」をテーマとするエッセイを全国公募しました。

美学美術史学科下山肇准教授のデザインによるポスターとチラシを 7 月に全国各地に配布して募集を行った結果、778 点のエッセイの応募がありました。

また、「短歌の部」は「絆（きずな）～人と人との結びつき、つながり～」をテーマとして募集を行ったところ、1,186 首の応募があり、市民の投票による選考が行われました。

平成 23 年 12 月 10 日には恵那市岩村コミュニティセンターにおいて、学長をはじめ 5 名が表彰式、記念イベントに出席しました。

(2) 恵那市との連携事業の推進

本学園と恵那市の包括的な連携協定に基づき、各種の協力を行いました。

① 講演「下田歌子の志とイギリス留学」大学英文学科大関啓子教授

平成 23 年 9 月 12 日 岩邑中学校

② 地域協議会女性のつどい「男女共同参画の視点の新たなまちづくり」

大学現代社会学科 鹿嶋敬教授 平成 24 年 3 月 10 日

上記の他、実践女子学園プロジェクト研究「下田歌子研究所」が平成 23 年 12 月 11 日に岩村振興事務所（旧役場）にて「歌子さんの集い」を開催しました。

(3) 恵那市岩村町での学祖法要の実施

理事長以下 15 名が、6 月 11、12 日に恵那市を訪問し、隆崇院での法要の後、下田家並びに平尾家墓所に参拝しました。

(4) 恵那市岩村町並びに学校における学祖教育、校祖学習の推進

平成 21 年度から実施を始めた、恵那市岩村町における大学・短期大学夏季セミナー「学長と行く、学祖故郷の旅」を、本年度も 9 月 8～10 日に 33 名（大学生 20 名、短期大学生 7 名、教員 4 名、職員 2 名）が参加して実施し、学祖の足跡をたどってきました。

また、大学・短期大学の新共通教育・実践スタンダード科目「実践入門セミナー」では、本年度も学長自ら学祖教育を行って、建学の精神の定着を図り、学祖顕彰を行いました。

中学校では 1 年生が校祖学習を行い、2 年生が伝統となっている恵那市岩村町における移動教室を行いました。

10 管理運営

学園及び設置学校の管理運営体制を整備し、公共性・透明性の確保に努めるとともに効率的な運営を目指して、以下の課題に取り組みました。

(1) 就業規則の見直し

平成22年度から就業規則整備委員会で就業規則の抜本的改正に着手してきましたが、平成23年5月に「実践女子大学・実践女子短期大学教育職員就業規則」及び「実践女子学園事務系、技能系及び労務系職員就業規則」の改正を行い、新たに「給与規程」、「労働時間、休日及び休暇に関する規程」、「期間の定めのある教職員就業規則」及び「助手・副手規程」を制定しました。

(2) 職員人事制度改革

2拠点化における教育・研究支援及び学生・生徒サービスを担う事務体制を視野に入れ、部長会の下にある「プロジェクトチーム」において、大学事務部と短期大学事務部の統合を検討しています。成果として、平成24年4月から大学事務部において、業務を明確にし管理運営体制を整備し「庶務課」と「教学課」を置くこととしました。

また、2拠点化を推進するため、「2拠点化推進本部」を平成24年4月に設置することとしました。

(3) 職員の資質向上のための研修制度の推進

職員の人事制度改革に伴い、目標管理の共有化による「仕事評価」の実施、国内の事務研修及び中間管理職を主体にしたマネジメントセミナーなどへの職員の派遣やSD(Staff Development)研修への職員の参加を進めました。

(4) 監査体制の強化

学園における内部統制の有効性を高め、リスク管理、コンプライアンス体制の強化を図るため、公認会計士監査、監事監査及び内部監査室の各種機能強化を進めるとともに、三者間の有機的な連携強化に取り組みました。

平成23年度の主な監査内容は以下のとおりです。

- ①平成23年度監査法人の気付き事項の改善状況
- ②平成22年度監事改善要望事項及び監査法人の気付き事項の改善状況
- ③諸規程の整備状況
- ④公的研究資金
- ⑤私立大学等経常費補助金
- ⑥預貯金、債権の残高照合

(5) 防災管理規程の整備

平成21年6月の消防法改正に対応し、本学園の「防災管理規程」を見直して、平成23年6月に新たに「実践女子学園防災管理規程」を制定しました。これにより、火災、地震対策等に加え、大雨、強風等への対策等への対応も規定しました。

(6) 学園史資料室の充実

学園の教育・研究活動の成果や活動の軌跡の証となる史料や資料を一元的に収集・保管・管理し、社会に提供する機能などの充実を図りました。

(7) 2 拠点化に向けた事務体制・組織及び意思決定の在り方の検討

部長会プロジェクトにおいて、2 拠点化後の組織の機能について検討を進め、平成 24 年度前期には、体制および人員の配置の案を作成するまで進展をみました。また、大学・短期大学の意思決定の在り方については、学長・学部長連絡会で検討を進めました。

(8) 学園附置施設の在り方の検討

大学の社会貢献を一層促進するために、現在、学園附置となっている生涯学習センターの大学附置施設移行は喫緊の課題として検討を始めました。

(9) 学園関係者の表彰について

豊田正武生活科学部食生活科学科教授が、永年にわたる保健衛生に係る功績により、平成 23 年秋の叙勲で瑞宝小綬章を受章されました。

1 1 情報インフラの整備

設置学校で展開する教育研究並びに学習の伸展を図り、合わせて全学的な教育支援体制を強化するために、ICT（情報通信技術）を有効活用する環境整備を以下のとおり行いました。

〔大学・短期大学〕

①大学・短期大学事務システム（教務・キャリア）の機器の入替

②Web を利用したシラバス入稿システムの構築・導入

〔大学〕

①大学第 4 館 436 教室への授業支援ツールの導入

②貸出用ノートパソコンの設置

〔中学校・高等学校〕

①事務システム（教務、入試）の機器入替

②中高図書館システムのサーバ機の入替

③電子黒板の導入

〔法人全体〕

①学園ネットワーク情報機器（スイッチ）の更新

1 2 地球温暖化対策の推進

平成 23 年度は、東日本大震災の影響による電力供給量の減少に伴い例年以上の節電が要請され、夏期使用最大電力の需要抑制率を平成 22 年度の最高使用電力の 15%とする目標を立て鋭意努力した結果、実現することができました。引き続き電力抑制及びエネルギーの節約を継続実施しています。

1 3 施設設備の改修・更新等

学園の施設設備を維持し有効活用するために、経年劣化等に対処する必要な改修・更新等を行いました。また、創立 120 周年整備事業の施設設備計画に基づき、諸方策を推進しました。

本年度実施した主な改修・更新等

〔大学〕大坂上キャンパス

①本館及び体育館の外壁修繕、本館屋根修繕

②本館受変電設備、監視盤の更新

- ③正門周辺及び本館側の舗装改修
- ④本館地下消火設備の更新
- ⑤図書館書庫空調設備の更新
- ⑥書棚の耐震固定
 - 〔短期大学〕 神明キャンパス
- ①情報ラウンジ空調機の増設
- ②構内通路タイルの張替
 - 〔中学校・高等学校〕 渋谷キャンパス
- ①プロムナード整備
- ②教室の床の張替
 - 〔学園〕
- ①学生会館電話交換機の更新
- ②生涯学習センター電話交換機の更新

1 4 財務計画

(1) 財政状況の改善

創立 120 周年第 1 期整備事業の着実な遂行とともに、将来的に経常費収支差額を適正に維持するため、引き続き人件費及び管理経費の抑制に努めました。その結果、今期の人件費比率は 58% 台に低下（前期 60.6%）し、管理経費の額は前年比 5% の削減を達成しました。

(2) 募金計画

実践女子学園奨学基金拡充募金に継続して取り組み、さらに教職員奨学資金についても学園教職員の協力を仰ぎ、継続的な募金活動を行いました。

学園創立 120 周年記念 1 期整備計画募金（平成 23 年 4 月～27 年 3 月）は当初、平成 23 年 4 月からの周知活動を計画していましたが、東日本大震災の人心への影響に配慮し、同窓生をはじめとする学園関係者への周知・寄付依頼を 7 月以降に開始しました。

平成 23 年の税制改革に伴い、学校法人に対する個人からの寄付の税額控除制度が導入されたのを受け、平成 23 年 10 月に税額控除に係る証明の申請を行い、平成 23 年 12 月 9 日に文部科学省より「税額控除に係る証明書」（有効期限平成 23 年 12 月 9 日から平成 28 年 12 月 8 日まで）の交付を受けました。

(3) 第 2 号基本金引当資産の積立

学園将来構想実現に向けた財源として、引き続き第 2 号基本金引当特定資産に 2 億円を積み立てました（積立累計額 24 億円）。

一方、中学校高等学校新体育館が竣工し、その建設資金として、第 2 号基本金引当特定資産を 4 億円、施設設備維持引当特定資産を 5 億 4,300 万円取り崩して充当しました。

(4) 第 3 号基本金の積立

現在の金融状況下、第 3 号基本金運用収入が減少傾向にあるため、奨学基金を継続して積み立てました。実践女子学園奨学基金は、平成 23 年度までの 5 年にわたる資金組入れの結果、1 億円増加し、4 億円となりました。

1.5 主な事業活動実績

■ 行事・式典等

平成23年 4月 3日	<input type="checkbox"/> 大学入学式
平成23年 4月 4日	<input type="checkbox"/> 短期大学入学式
平成23年 4月 7日	<input type="checkbox"/> 中学校・高等学校入学式
平成23年 5月 15日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学オープンキャンパス開始(24年3月まで8回開催)
平成23年 6月 18日	<input type="checkbox"/> 中学校オープンスクール開始
平成23年 7月 23日	<input type="checkbox"/> 実践フェスタ2011開始(長野、以下8月21日静岡まで6か所で開催)
平成23年 7月 30日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学修学就職支援フェア
平成23年 9月 17日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学卒業式
平成23年 10月 8日	<input type="checkbox"/> 学祖下田歌子命日 墓前祭
平成23年 10月 11日	<input type="checkbox"/> 中学校運動会(駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館)
平成23年 10月 29日	<input type="checkbox"/> 中学校高等学校ときわ祭(10月29日、30日)
平成23年 10月 30日	<input type="checkbox"/> 第13回ホームカミングデー(渋谷キャンパス)
平成23年 11月 12日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学常磐祭(～13日)
平成23年 11月 12日	<input type="checkbox"/> 第13回ホームカミングデー(日野大坂上キャンパス)
平成23年 12月 7日	<input type="checkbox"/> 中学校高等学校 創立120周年記念体育館竣工式
平成24年 1月 20日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学一般入学試験Ⅰ期(試験会場:日野、仙台、柏、宇都宮、高崎、新潟、長野、静岡) (Ⅱ期2月2日3日、5日、Ⅲ期3月6日)
平成24年 1月 27日	<input type="checkbox"/> (一社)教育文化振興実践協会会館竣工式
平成24年 2月 1日	<input type="checkbox"/> 中学校入学試験(～4日)
平成24年 3月 2日	<input type="checkbox"/> 渋谷キャンパス 大学・短期大学棟(仮称)地鎮祭
平成24年 3月 3日	<input type="checkbox"/> 高等学校卒業式
平成24年 3月 17日	<input type="checkbox"/> 中学校卒業式
平成24年 3月 17日	<input type="checkbox"/> 大学・短期大学 1年後の卒業式
平成24年 3月 19日	<input type="checkbox"/> 短期大学卒業式
平成24年 3月 20日	<input type="checkbox"/> 大学卒業式

■ 教育・研究関連

<大学院・大学・短期大学>

大学・短期大学将来構想	<input type="checkbox"/> 短期大学収容定員変更(日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科定員減)届出(平成23年7月29日届出)
公的教育資金の獲得	<input type="checkbox"/> 文部科学省平成21年度大学教育・学生支援推進事業の継続実施 大学:「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」(最終年度)
公的研究資金の獲得	<input type="checkbox"/> 科学研究費補助金「ユニバーサルデザインに向けた衣服設計用ボディの開発」他8件

<特別事業計画>

大学	<input type="checkbox"/> 入学前教育と入学後初期教育を結ぶ文学部リメディアル教育の充実に向けた取り組み <input type="checkbox"/> 教員・司書等志望学生の人材養成のための教育・学習方法の改善 <input type="checkbox"/> 生活科学部教育への導入と展開 <input type="checkbox"/> 管理栄養士の学力向上を目指した教育環境の整備 <input type="checkbox"/> 学部レベルでのキャリア教育の推進
----	--

短期大学	<input type="checkbox"/> ビジネスコミュニケーションにおける「話す力」のスキルアップ <input type="checkbox"/> 実践的日本語力の定着を目指した取り組み <input type="checkbox"/> 国際化教育プログラムの実施 <input type="checkbox"/> 「地域インターンシップ」の推進によるキャリア教育の充実 <input type="checkbox"/> 入学前、在学中、卒業後に至る一貫した質の高い栄養士教育の実践 <input type="checkbox"/> 自ら考え、話し合い、行動する教師の育成をめざした授業方法の導入 <input type="checkbox"/> 図書館学課程受講生を対象に「読書の楽しみと図書館」の編集発行
------	--

<実践女子学園プロジェクト研究所>

研究プロジェクト名称	研究所名称	研究課題（テーマ）	設置期間
桜楓散歩会	実践女子学園 健康栄養科学研究所	地域高齢者に対する生活機能向上と居場所づくりを目的とした大学の教育的支援活動の在り方	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
実践女子学園中・高・大連携教育における学習支援の開発研究プロジェクト	実践女子学園 中・高・大連携教育 開発研究所	中・高・大連携教育における生徒の学力向上を促す「教授法」及び「学習支援システム」の開発ー理科教育の学力向上を目指してー	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
実践女子大学、実践女子短期大学植栽プロジェクト	実践女子学園 植栽プロジェクト研 究所	多種の植栽に関わる活動を学生とともに実施しながら知識を取得したり、植物はもとより自然や環境問題にも興味をもってもらおう	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
次世代型情報基盤教育への新展開	実践女子学園 社会情報教育イノベ ーション研究所	次世代型情報基盤教育の環境開発と高等教育への展開	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
下田歌子研究プロジェクト	実践女子学園 下田歌子研究所	下田歌子研究(事績研究、資料収集、アーカイブ作成、リーフレット作成、イベント開催、研究会開催)	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
実践女子大学食の風景プロジェクト	実践女子学園 食の風景プロジェク ト研究所	人々の生活範囲が世界的な広がりを見せるなかで、より日本的な事項をキーワードにあらゆる角度から研究することを主眼に、日仏の文学と食文化の比較を経て、人間力とは何かを探索することを目的とする。	H23. 7. 20 ～H25. 3. 31
「恵那と日野を結ぶ食と子ども」プロジェクト	実践女子学園 食育研究所	恵那と日野を結ぶ食と子どもに関する研究	H23. 7. 20 ～H26. 3. 31
「ソーシャル・リクルーティング×次世代人材育成」プロジェクト	実践女子学園 ソーシャル・リクル ーティング研究所	ソーシャル・リクルーティングの展開を踏まえた高等教育における次世代型人材育成・キャリア教育のあり方と実践	H24. 4. 1 ～H27. 3. 31

■ 学生・生徒支援

奨学金制度の拡充	<input type="checkbox"/> 教職員奨学資金給付：大学生2名、短大生1名、高校生1名
学長賞・校長賞等奨励賞授与	<input type="checkbox"/> 学長賞[平成23年5月授与式]、校長賞[平成24年3月卒業式]

■ 東日本大震災対策・被災学生支援プロジェクト

学生行事の実施	4月3日 大学入学式、4月4日 短大入学式 式典内容の見直し、新入生のみ出席で実施 4月9日 授業開始（年間計画どおり実施） 履修登録期間の延長 4月27日 春の懇親会（被災学生の交流会） 9月3日 復興応援コンサート（郡山） 後援会地区懇談会 3月17日 平成22年度 1年後の卒業式 平成23年3月17日、19日の卒業式を中止。卒業生のために、1年後の卒業式を実施。
学生支援室設置	<input type="checkbox"/> 被災学生支援室設置（4月） 被災地域出身学生の把握、修学・生活相談、学内アルバイト紹介 <input type="checkbox"/> 春の懇親会の開催（4月27日）

経済的支援	<input type="checkbox"/> 学費減免 (全額免除：全壊・大規模半壊、半額免除：半壊、見舞金：一部損壊) 大学 全額免除 8名、半額免除 16名、見舞金 20名 短大 全額免除 3名、半額免除 3名、見舞金 1名) 中学校高等学校 中学生1名、高校生1名 <input type="checkbox"/> 東日本大震災被災者支援奨学金 (300,000円) 大学 7名、短大 3名 300,000円 <input type="checkbox"/> 東日本大震災修学支援資金給付 (100,000円) 大学 10名、短大2名 1,200,000円 資金寄付者 14件(個人12名、有志、団体2件) 合計 2,213,395円 <input type="checkbox"/> 東北地方太平洋沖地震被災者生活緊急給付金 (100,000円) 大学 2名、短大1名 250,000円(大学1名は50,000円) <input type="checkbox"/> 実践桜会奨学基金特別給付枠 (300,000円) 大学 1名 300,000円 <input type="checkbox"/> 臨時宿泊施設 国際交流会館利用 利用者2名(1名は4月中旬まで) <input type="checkbox"/> 学内アルバイト (JOB MATE) 大学 18名、短大 3名(延べ 1,658時間) 1,442,460円
心の支援	<input type="checkbox"/> 学生相談センター相談員増
学生、被災地域支援	<input type="checkbox"/> ボランティア活動 ビッグバンドジャズ部チャリティコンサートの実施(5月1日) 被災地向け物資輸送活動支援(大学院博士後期課程 1名) 日野市ボランティア・センター(生活文化学科 複数名) 名古屋市田老地区支援プロジェクト(生活文化学科 教員、学生) <input type="checkbox"/> 義援金 <input type="checkbox"/> 食堂義援金メニュー(協力：学校福祉協会、東京ジューキ食品) 前期 7,798食 311,920円、後期 8,396食 335,840円 <input type="checkbox"/> 被災地へ絵本を送るプロジェクト 教職員、学生、卒業生、元職員等42名から623冊が寄贈 岩手県大槌町教育委員会へ寄贈

■ 国際交流活動

<大学院・大学・短期大学>

協定校・交換留学生受入れ	<input type="checkbox"/> オランダ・オランダ国立南大学 後期3名 <input type="checkbox"/> 中国・中国伝媒大学 後期5名 <input type="checkbox"/> 韓国・檀国大学校 後期1名
協定校・交換留学生派遣	<input type="checkbox"/> オランダ・オランダ国立南大学 交換協定校留学2名 <input type="checkbox"/> 韓国・檀国大学校 交換協定校留学3名 <input type="checkbox"/> カナダ・フレーザーバレー大学 交換協定校留学1名 協定校留学4名
語学研修プログラム(夏期)	<input type="checkbox"/> 中国・清華大学 <input type="checkbox"/> 韓国・檀国大学校 <input type="checkbox"/> アメリカ・ワシントン大学 <input type="checkbox"/> カナダ・フレーザーバレー大学 合計 63名(大学・短期大学)
語学研修プログラム(春期)	<input type="checkbox"/> オーストラリア・ストッツカレッジ 11名(短期大学英語コミュニケーション学科)

<中学校高等学校>

協定校・派遣留学生受入れ	<input type="checkbox"/> ドイツ・フェリクス・メンデルスゾーン・パーソルディー高等学校1名 <input type="checkbox"/> イギリス・セントヘレンズ高等学校1名 <input type="checkbox"/> 上海師範大学付属高校1名
協定校留学生派遣(短期)	<input type="checkbox"/> タイ・国立カセサート大学付属高等学校2名 <input type="checkbox"/> ドイツ・ヒルデガルドウェグシャイダー高等学校1名 <input type="checkbox"/> ドイツ・フェリクス・メンデルスゾーン・パーソルディー高等学校1名
奨学制度留学生派遣	<input type="checkbox"/> ニュージーランド・オークランド語学学校2名

■ 建学の精神の高揚—学祖下田歌子顕彰事業

岐阜県恵那市先人顕彰事業	<input type="checkbox"/> 恵那市、本学園等主催「第9回下田歌子賞」表彰式（12月10日）
法要、墓参	<input type="checkbox"/> 下田歌子先生76回忌法要、墓参（6月11日、12日）
『源氏物語』関係展示、公開講座等	<input type="checkbox"/> 「源氏物語の転生 - ささまざまな形と姿をもとめて -」（10月3日～23日）

■ 管理・運営

寄附行為変更	<input type="checkbox"/> 副理事長制、常務理事3名等 寄附行為変更申請（平成22年6月申請） （平成22年9月27日認可） <input type="checkbox"/> 副理事長制（平成23年4月施行）
職員の資質向上のための研修の実施	<input type="checkbox"/> 管理職研修：評価者研修 （9月12日、12月2日）
常任理事集中討議の実施	<input type="checkbox"/> 常任理事会集中討議：2拠点展開のための基盤整備、2期整備計画の策定 （8月4日、5日）
内部監査の実施	<input type="checkbox"/> 監査法人の気付き事項 <input type="checkbox"/> 諸規程の整備状況 <input type="checkbox"/> 公的研究資金 <input type="checkbox"/> 私立大学等経常費補助金 <input type="checkbox"/> 預貯金、債権の残高照合 <input type="checkbox"/> 三様監査連絡会での内部監査状況協議（2回）
諸規程の整備	<input type="checkbox"/> 学校法人実践女子学園倫理綱領 <input type="checkbox"/> 学校法人実践女子学園研究倫理規程 <input type="checkbox"/> 学校法人実践女子学園情報公開規程 <input type="checkbox"/> 実践女子大学・実践女子短期大学副学長の選任に関する規程 <input type="checkbox"/> 実践女子学園知的財産等に関する規程 <input type="checkbox"/> 実践女子大学、実践女子短期大学受託研究取扱規程 <input type="checkbox"/> 実践女子大学・実践女子短期大学動物実験等の実施に関する規程 <input type="checkbox"/> 実践女子大学生生活科学部動物実験委員会規程 <input type="checkbox"/> 実践女子短期大学動物実験委員会規程 <input type="checkbox"/> 実践女子学園プロジェクト研究所に関する規程 <input type="checkbox"/> 実践女子大学・実践女子短期大学教育職員就業規則（改正） <input type="checkbox"/> 実践女子学園中学校・高等学校教育職員就業規則（改正） <input type="checkbox"/> 実践女子学園事務系及び労務系職員就業規則（改正） <input type="checkbox"/> 助手・副手規程 <input type="checkbox"/> 労働時間、休日及び休暇等に関する規程 <input type="checkbox"/> 学校法人実践女子学園給与規定 <input type="checkbox"/> 期間の定めのある教職員就業規則 <input type="checkbox"/> 実践女子学園防災管理規程
安全対策	<input type="checkbox"/> 中学校・高等学校において防災訓練実施 <input type="checkbox"/> 短期大学において避難訓練実施 <input type="checkbox"/> 短期大学において自衛消防訓練実施 <input type="checkbox"/> 応急救護講習会の実施

1 6 参考資料

2012 年度入学試験結果 (大学)

《一般入試》

【Ⅰ期(地方入試)】

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	30	220	218	70	3.1	181.0	157.0	164.7	200	
	英文学科	110	25	229	228	168	1.4	181.0	141.0	155.7	200	
	美学美術史学科	90	20	73	71	69	1.0	185.0	119.0	148.3	200	
	計	310	75	522	517	307	-	-	-	-	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	10	165	165	32	5.2	186.0	173.0	177.3	200
		食物科学専攻	75	12	92	90	36	2.5	185.0	160.0	170.1	200
	生活環境学科	80	20	124	124	63	2.0	186.0	152.0	164.5	200	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	10	21	21	18	1.2	180.0	131.0	152.8	200
		幼児保育専攻	45	10	161	161	10	16.1	185.0	170.0	175.8	200
	計	310	62	563	561	159	-	-	-	-	-	
人間社会学科	人間社会学科／現代社会学科	200	30	390	386	193	2.0	190.0	150.0	160.3	200	
	計	200	30	390	386	193	-	-	-	-	-	
合 計		820	167	1,475	1,464	659	-	-	-	-	-	

【Ⅱ期3科目型】※募集人員はⅡ期2科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者(第2志望合格者は含まない)

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	15	30	27	18	1.5	245.0	163.0	192.1	300	
	英文学科	110	15	24	19	14	1.4	245.0	199.0	215.1	300	
	美学美術史学科	90	10	11	8	6	1.3	231.0	186.0	206.8	300	
	計	310	40	65	54	38	-	-	-	-	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	24	69	62	17	3.6	258.0	224.0	238.4	300
		食物科学専攻	75	20	18	16	注① 21	2.0	233.0	196.0	212.9	300
	生活環境学科	80	10	20	17	8	2.1	244.0	206.0	223.6	300	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	10	9	9	注② 9	1.3	228.0	170.0	198.4	300
		幼児保育専攻	45	10	35	29	6	4.8	256.0	212.0	223.0	300
	計	310	74	151	133	61	-	-	-	-	-	
人間社会学科	人間社会学科／現代社会学科	200	28	63	53	29	1.8	259.0	189.0	212.9	300	
	計	200	28	63	53	29	-	-	-	-	-	
合 計		820	142	279	240	128	-	-	-	-	-	

注①：第2志望合格者含む(管理栄養士専攻から13名、合格最低点201.0点) 注②：第2志望合格者含む(幼児保育専攻から2名、合格最低点191.0点)

【Ⅱ期2科目型】※募集人員はⅡ期3科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者(第2志望合格者は含まない)

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	15	50	42	17	2.5	173.0	130.0	148.4	200	
	英文学科	110	15	36	28	22	1.3	155.0	99.0	121.6	200	
	美学美術史学科	90	10	22	12	10	1.2	153.0	112.0	128.5	200	
	計	310	40	108	82	49	-	-	-	-	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	24	116	98	35	2.8	176.0	150.0	159.1	200
		食物科学専攻	75	20	50	43	25	1.7	160.0	120.0	134.4	200
	生活環境学科	80	10	26	17	6	2.8	146.0	114.0	126.7	200	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	10	4	2	注① 7	1.0	97.0	94.0	95.5	200
		幼児保育専攻	45	10	38	33	4	8.3	151.0	143.0	145.0	200
	計	310	74	234	193	77	-	-	-	-	-	
人間社会学科	人間社会学科／現代社会学科	200	28	122	102	36	2.8	170.0	134.0	145.3	200	
	計	200	28	122	102	36	-	-	-	-	-	
合 計		820	142	464	377	162	-	-	-	-	-	

注①：第2志望合格者含む(幼児保育専攻から5名、合格最低点104.0点)

【Ⅲ期】

倍率＝受験者／合格者(第2志望合格者は含まない)

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	10	68	50	32	1.6	174.0	111.0	133.1	200	
	英文学科	110	5	41	28	21	1.3	156.0	103.0	130.0	200	
	美学美術史学科	90	5	18	17	15	1.1	150.0	86.0	115.8	200	
	計	310	20	127	95	68	-	-	-	-	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	2	20	18	3	6.0	171.0	167.0	168.7	200
		食物科学専攻	75	2	12	12	注① 8	2.0	163.0	141.0	149.8	200
	生活環境学科	80	5	17	14	5	2.8	179.0	136.0	149.2	200	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	2	24	20	注② 29	1.1	179.0	102.0	132.9	200
		幼児保育専攻	45	2	30	26	2	13.0	148.0	148.0	148.0	200
	計	310	13	103	90	47	-	-	-	-	-	
人間社会学科	人間社会学科／現代社会学科	200	10	93	78	33	2.4	170.0	130.0	142.4	200	
	計	200	10	93	78	33	-	-	-	-	-	
合 計		820	43	323	263	148	-	-	-	-	-	

注①：第2志望合格者含む(管理栄養士専攻から2名、合格最低点140.0点)

注②：第2志望合格者含む(幼児保育専攻から10名、合格最低点103.0点)

《センター試験利用入試》

【Ⅰ期】

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	15	191	191	81	2.4	247.9	185.1	205.4	300	
	英文学科	110	20	303	303	186	1.6	250.4	162.7	189.9	300	
	美学美術史学科	90	15	107	107	85	1.3	170.0	104.7	131.0	200	
	計	310	50	601	601	352	-	-	-	-	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	6	180	180	84	2.1	271.2	220.4	240.8	300
		食物科学専攻	75	8	151	150	92	1.6	265.2	190.4	218.6	300
	生活環境学科	80	10	99	99	44	2.3	268.0	191.0	213.3	300	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	2	24	24	15	1.6	232.4	172.4	193.3	300
		幼児保育専攻	45	3	50	50	3	16.7	271.5	244.3	255.7	300
	計	310	29	504	503	238	-	-	-	-	-	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	25	402	401	207	1.9	251.9	175.0	198.2	300	
	計	200	25	402	401	207	-	-	-	-	-	
合計		820	104	1,507	1,505	797	-	-	-	-	-	

*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

【Ⅱ期】

倍率＝志願者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
文学部	国文学科	110	10	52	52	38	1.4	160.0	127.0	140.3	200	
	英文学科	110	5	48	48	39	1.2	183.4	100.6	125.8	200	
	美学美術史学科	90	5	16	16	15	1.1	167.7	105.0	132.2	200	
	計	310	20	116	116	92	-	-	-	-	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	2	21	21	9	2.3	255.2	225.8	238.2	300
		食物科学専攻	75	3	19	19	15	1.3	178.0	142.0	155.3	200
	生活環境学科	80	5	20	20	9	2.2	158.0	146.0	150.8	200	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	2	12	12	8	1.5	147.6	114.6	127.2	200
		幼児保育専攻	45	2	13	13	2	6.5	158.4	150.0	154.2	200
	計	310	14	85	85	43	-	-	-	-	-	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	10	80	80	48	1.7	167.0	130.0	142.4	200	
	計	200	10	80	80	48	-	-	-	-	-	
合計		820	44	281	281	183	-	-	-	-	-	

*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

《公募推薦入試》

【Ⅰ期】

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
文学部	国文学科	110	5	2	2	2	1.0	
	英文学科	110	6	2	2	0	-	
	美学美術史学科	90	2	1	1	1	1.0	
	計	310	13	5	5	3	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	3	11	11	4	2.8
		食物科学専攻	75	7	10	10	6	1.7
	生活環境学科	80	6	5	5	5	1.0	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	2	0	0	0	-
		幼児保育専攻	45	2	10	10	4	2.5
	計	310	20	36	36	19	-	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	8	6	6	4	1.5	
	計	200	8	6	6	4	-	
合計		820	41	47	47	26	-	

【Ⅱ期】

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
文学部	国文学科	110	5	1	1	1	1.0	
	英文学科	110	-	-	-	-	-	
	美学美術史学科	90	2	0	0	0	-	
	計	310	7	1	1	1	-	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	2	7	7	2	3.5
		食物科学専攻	75	3	5	5	3	1.7
	生活環境学科	80	-	-	-	-	-	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	2	0	0	0	-
		幼児保育専攻	45	2	10	10	2	5.0
	計	310	9	22	22	7	-	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	4	13	13	7	1.9	
	計	200	4	13	13	7	-	
合計		820	20	36	36	15	-	

《自己推薦入試》

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	110	-	-	-	-	-
	英文学科	110	-	-	-	-	-
	美学美術史学科	90	-	-	-	-	-
	計	310	-	-	-	-	-
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	-	-	-	-
		食物科学専攻	75	-	-	-	-
	生活環境学科	80	1	0	0	0	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	-	-	-	-
		幼児保育専攻	45	-	-	-	-
	計	310	-	-	-	-	-
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	-	-	-	-	-
	計	200	-	-	-	-	-
合計		820	1	0	0	0	-

《卒業生・在学生子女推薦入試》

倍率＝受験者／合格者

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	110	1	0	0	0	-
	英文学科	110	2	0	0	0	-
	美学美術史学科	90	1	0	0	0	-
	計	310	4	0	0	0	-
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	1	2	2	1.0
		食物科学専攻	75	2	1	1	1.0
	生活環境学科	80	1	1	1	1.0	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	1	0	0	-
		幼児保育専攻	45	1	1	1	1.0
	計	310	6	5	5	-	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	4	1	1	0	-
	計	200	4	1	1	0	-
合計		820	14	6	6	5	-

《特別選抜入試》

【海外帰国子女入試】

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	若干名	0	0	0	
	英文学科	110	若干名	0	0	0	
	美学美術史学科	90	若干名	0	0	0	
	計	310	-	0	0	0	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	若干名	1	1	0
		食物科学専攻	75	若干名	0	0	0
	生活環境学科	80	若干名	2	2	2	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	若干名	0	0	0
		幼児保育専攻	45	若干名	0	0	0
	計	310	-	3	3	2	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	若干名	0	0	0	
	計	200	-	0	0	0	
合計		820	-	3	3	2	

【社会人入試】

学部・学科・専攻		入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	国文学科	110	若干名	0	0	0
	英文学科	110	若干名	0	0	0
	美学美術史学科	90	若干名	0	0	0
	計	310	-	0	0	0
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	若干名	0	0
		食物科学専攻	75	若干名	0	0
	生活環境学科	80	若干名	0	0	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	若干名	0	0
		幼児保育専攻	45	若干名	0	0
	計	310	-	0	0	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	若干名	0	0	
	計	200	-	0	0	
合計		820	-	0	0	

《AO入試》 ※募集人員はⅠ・Ⅱ・Ⅲ期を合わせた人数

【Ⅰ期】

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	エントリー者数	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	5	-	-	-	-	
	英文学科	110	6	-	-	-	-	
	美学美術史学科	90	15	8	7	7	7	
	計	310	26	8	7	7	7	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	4	33	3	3	3
		食物科学専攻	75	5	24	5	5	5
	生活環境学科	80	10	29	28	28	28	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	4	3	2	2	2
		幼児保育専攻	45	4	33	13	13	13
	計	310	27	122	51	51	51	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	7	-	-	-	-	
	計	200	7	-	-	-	-	
合 計		820	60	130	58	58	58	

【Ⅱ期】

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	エントリー者数	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	5	11	6	6	6	
	英文学科	110	6	8	5	5	5	
	美学美術史学科	90	15	-	-	-	-	
	計	310	26	19	11	11	11	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	4	-	-	-	-
		食物科学専攻	75	5	-	-	-	-
	生活環境学科	80	10	-	-	-	-	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	4	4	3	3	3
		幼児保育専攻	45	4	18	3	3	3
	計	310	27	22	6	6	6	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	7	-	-	-	-	
	計	200	7	-	-	-	-	
合 計		820	60	41	17	17	17	

【Ⅲ期】

学部・学科・専攻		入学定員	※募集人員	エントリー者数	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	110	5	-	-	-	-	
	英文学科	110	6	-	-	-	-	
	美学美術史学科	90	15	3	3	3	3	
	計	310	26	3	3	3	3	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	4	-	-	-	-
		食物科学専攻	75	5	-	-	-	-
	生活環境学科	80	10	6	5	5	5	
	生活文化学科	生活文化専攻	40	4	-	-	-	-
		幼児保育専攻	45	4	-	-	-	-
	計	310	27	6	5	5	5	
人間社会学部	人間社会学科／現代社会学科	200	7	28	10	10	10	
	計	200	7	28	10	10	10	
合 計		820	60	37	18	18	18	

2012年度入学試験結果 (短期大学)

《一般入試》

【Ⅰ期2科目型】※募集人員はⅠ期1科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	15	5	5	注① 8	1.0	169.0	82.0	119.4	200
英語コミュニケーション学科	100	10	2	2	2	1.0	121.0	89.0	105.0	200
観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース			7	5	5	1.0	138.0	96.0	116.0	200
計	180	25	14	12	15	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	5	10	9	4	2.3	167.0	141.0	151.0	200
計	80	5	10	9	4	-	-	-	-	-
合計	260	30	24	21	19	-	-	-	-	-

注①：第2志望合格者含む（食物栄養学科から3名、合格最低点90.0点）

【Ⅰ期1科目型】※募集人員はⅠ期2科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	15	11	11	注① 13	1.1	85.0	55.0	71.5	100
英語コミュニケーション学科	100	10	1	1	1	1.0	72.0	72.0	72.0	100
観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース			1	1	1	1.0	81.0	81.0	81.0	100
計	180	25	13	13	15	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	5	26	26	14	1.9	91.0	60.0	69.9	100
計	80	5	26	26	14	-	-	-	-	-
合計	260	30	39	39	29	-	-	-	-	-

注①：第2志望合格者含む（食物栄養学科から3名、合格最低点48.0点）

【大学一般Ⅰ期併願】※募集人員はⅠ期1、2科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	15	117	116	115	1.0	184.0	101.0	145.3	200
英語コミュニケーション学科	100	10	75	74	74	1.0	180.0	87.0	147.9	200
観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース			85	85	85	1.0	174.0	100.0	145.1	200
計	180	25	277	275	274	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	5	131	129	97	1.3	182.0	140.0	157.5	200
計	80	5	131	129	97	-	-	-	-	-
合計	260	30	408	404	371	-	-	-	-	-

【Ⅱ期2科目型】※募集人員はⅡ期1科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	10	4	3	注① 6	1.0	169.0	107.0	141.7	200
英語コミュニケーション学科	100	7	2	1	1	1.0	95.0	95.0	95.0	200
観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース			3	3	3	1.0	136.0	122.0	129.7	200
計	180	17	9	7	10	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	13	14	11	7	1.6	172.0	140.0	152.6	200
計	80	13	14	11	7	-	-	-	-	-
合計	260	30	23	18	17	-	-	-	-	-

注①：第2志望合格者含む（食物栄養学科から3名、合格最低点91.0点）

【Ⅱ期1科目型】※募集人員はⅡ期2科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	10	10	7	注① 8	1.2	83.0	55.0	70.7	100
英語コミュニケーション学科	100	7	3	3	3	1.0	76.0	65.0	69.0	100
観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース			1	1	1	1.0	71.0	71.0	71.0	100
計	180	17	14	11	12	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	13	24	17	14	1.2	89.0	61.0	74.3	100
計	80	13	24	17	14	-	-	-	-	-
合計	260	30	38	28	26	-	-	-	-	-

注①：第2志望合格者含む（食物栄養学科から2名、合格最低点48.0点）

【Ⅱ期センター併用3科目型】※募集人員はⅡ期1、2科目型・センター併用2科目型と合わせた人数

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	10	1	0	0	-	-	-	-	300
英語コミュニケーション学科	100	7	0	0	0	-	-	-	-	300
観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース			2	2	2	1.0	182.0	166.0	174.0	300
計	180	17	3	2	2	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	13	3	3	2	1.5	249.0	227.0	238.0	300
計	80	13	3	3	2	-	-	-	-	-
合計	260	30	6	5	4	-	-	-	-	-

【Ⅱ期センター併用2科目型】 ※募集人員はⅡ期1、2科目型・センター併用3科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	10	4	3	3	1.0	150.0	135.0	140.7	200
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	7	0	0	0	-	-	-	-	200
			1	1	1	1.0	123.0	123.0	123.0	200
計	180	17	5	4	4	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	13	9	7	6	1.2	177.0	139.0	156.2	200
計	80	13	9	7	6	-	-	-	-	-
合計	260	30	14	11	10	-	-	-	-	-

【Ⅲ期2科目型】 ※募集人員はⅢ期1科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	5	1	1	1	1.0	109.0	109.0	109.0	200
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	2	2	2	1.0	130.0	118.0	124.0	200
			4	4	注①	5	1.0	147.0	125.0	138.8
計	180	10	7	7	8	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	3	2	2	0	-	-	-	-	200
計	80	3	2	2	0	-	-	-	-	-
合計	260	13	9	9	8	-	-	-	-	-

注①：第2志望合格者含む（食物栄養学科から1名、合格最低点131.0点）

【Ⅲ期1科目型】 ※募集人員はⅢ期2科目型・センター併用2、3科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者（第2志望者は含まない）

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
日本語コミュニケーション学科	80	5	6	6	注①	9	1.2	75.0	58.0	66.0	100
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	0	0	注②	2	-	-	-	-	100
			1	1	注③	2	1.0	65.0	65.0	65.0	100
計	180	10	7	7	13	-	-	-	-	-	
食物栄養学科	80	3	23	23	3	7.7	84.0	78.0	80.3	100	
計	80	3	23	23	3	-	-	-	-	-	
合計	260	13	30	30	16	-	-	-	-	-	

注①：第2志望合格者含む（食物栄養学科から4名、合格最低点42.0点）

注②：第2志望合格者含む（食物栄養学科から2名、合格最低点71.0点）

注③：第2志望合格者含む（食物栄養学科から1名、合格最低点51.0点）

【Ⅲ期センター併用3科目型】 ※募集人員はⅢ期1、2科目型・センター併用2科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	5	0	0	0	-	-	-	-	300
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	1	1	1	1.0	162.0	162.0	162.0	300
			0	0	0	-	-	-	-	-
計	180	10	1	1	1	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	3	0	0	0	-	-	-	-	300
計	80	3	0	0	0	-	-	-	-	-
合計	260	13	1	1	1	-	-	-	-	-

【Ⅲ期センター併用2科目型】 ※募集人員はⅢ期1、2科目型・センター併用3科目型と合わせた人数 倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	5	0	0	0	-	-	-	-	200
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	0	0	0	-	-	-	-	200
			0	0	0	-	-	-	-	200
計	180	10	0	0	0	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	3	10	10	1	10.0	163.0	163.0	163.0	200
計	80	3	10	10	1	-	-	-	-	-
合計	260	13	10	10	1	-	-	-	-	-

《センター試験利用入試》

【Ⅰ期】2科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅰ期1科目型と合わせた人数 倍率＝志願者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	3	5	5	5	1.0	131.0	103.0	113.8	200
英語コミュニケーション学科 観光ビジネスコース 国際コミュニケーションコース	100	5	10	10	10	1.0	130.8	85.6	108.1	200
			15	15	14	1.1	120.6	74.0	94.9	200
計	180	8	30	30	29	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	5	33	33	21	1.6	173.2	122.0	139.2	200
計	80	5	33	33	21	-	-	-	-	-
合計	260	13	63	63	50	-	-	-	-	-

*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

【Ⅰ期】1科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅰ期2科目型と合わせた人数 倍率＝志願者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	3	6	6	5	1.2	74.0	46.0	62.0	100
英語コミュニケーション学科	100	5	観光ビジネスコース	0	0	0	-	-	-	100
			国際コミュニケーションコース	4	4	3	1.3	68.0	51.6	57.7
計	180	8	10	10	8	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	260	8	10	10	8	-	-	-	-	-

*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

【Ⅱ期】2科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅱ期1科目型と合わせた人数 倍率＝志願者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
日本語コミュニケーション学科	80	3	7	7	6	1.2	147.0	114.0	130.2	200	
英語コミュニケーション学科	100	5	観光ビジネスコース	2	2	2	1.0	135.6	109.0	122.3	200
			国際コミュニケーションコース	4	4	4	1.0	149.0	106.6	118.6	200
計	180	8	13	13	12	-	-	-	-	-	
食物栄養学科	80	3	18	18	3	6.0	167.0	147.0	158.0	200	
計	80	3	18	18	3	-	-	-	-	-	
合計	260	11	31	31	15	-	-	-	-	-	

*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

【Ⅱ期】1科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅱ期2科目型と合わせた人数 倍率＝志願者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	3	6	6	6	1.0	72.0	56.0	64.7	100
英語コミュニケーション学科	100	5	観光ビジネスコース	0	0	0	-	-	-	100
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	-	-	-	100
計	180	8	6	6	6	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	260	8	6	6	6	-	-	-	-	-

*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

【Ⅲ期】2科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅲ期1科目型と合わせた人数 倍率＝志願者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点	
日本語コミュニケーション学科	80	3	5	5	5	1.0	132.0	92.0	110.6	200	
英語コミュニケーション学科	100	5	観光ビジネスコース	6	6	6	1.0	133.8	76.4	111.6	200
			国際コミュニケーションコース	5	5	5	1.0	153.2	109.8	125.6	200
計	180	8	16	16	16	-	-	-	-	-	
食物栄養学科	80	2	11	11	2	5.5	156.0	152.2	154.1	200	
計	80	2	11	11	2	-	-	-	-	-	
合計	260	10	27	27	18	-	-	-	-	-	

*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

【Ⅲ期】1科目型 ※募集人員はセンター試験利用入試Ⅲ期2科目型と合わせた人数 倍率＝志願者／合格者

学科・コース	入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格最高点	合格最低点	合格平均点	満点
日本語コミュニケーション学科	80	3	7	7	7	1.0	83.0	52.0	62.3	100
英語コミュニケーション学科	100	5	観光ビジネスコース	0	0	0	-	-	-	100
			国際コミュニケーションコース	1	1	1	1.0	58.4	58.4	58.4
計	180	8	8	8	8	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	260	8	8	8	8	-	-	-	-	-

*センター試験利用入試の得点は各科目100点満点に換算

《公募推薦入試》

【Ⅰ期】

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	80	7	2	2	2	1.0	
英語コミュニケーション学科	100	7	観光ビジネスコース	2	2	2	1.0
			国際コミュニケーションコース	1	1	1	1.0
計	180	14	5	5	5	-	
食物栄養学科	80	15	27	26	25	1.0	
計	80	15	27	26	25	-	
合計	260	29	32	31	30	-	

【Ⅱ期】

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	3	2	2	2	1.0
英語コミュニケーション学科	100	3	観光ビジネスコース	1	1	1.0
			国際コミュニケーションコース	3	3	1.5
計	180	6	6	6	5	-
食物栄養学科	80	3	10	10	8	1.3
計	80	3	10	10	8	-
合計	260	9	16	16	13	-

《卒業生・在学子女推薦入試》

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	2	1	1	1	1.0
英語コミュニケーション学科	100	2	観光ビジネスコース	0	0	-
			国際コミュニケーションコース	0	0	-
計	180	4	1	1	1	-
食物栄養学科	80	2	0	0	0	-
計	80	2	0	0	0	-
合計	260	6	1	1	1	-

《専門課程推薦入試》

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	-	-	-	-	-
英語コミュニケーション学科	100	-	観光ビジネスコース	-	-	-
			国際コミュニケーションコース	-	-	-
計	180	-	-	-	-	-
食物栄養学科	80	3	3	3	3	1.0
計	80	3	3	3	3	-
合計	260	3	3	3	3	-

《自己推薦入試》

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	2	1	1	1	1.0
英語コミュニケーション学科	100	3	観光ビジネスコース	2	1	1.0
			国際コミュニケーションコース	1	1	1.0
計	180	5	4	3	3	-
食物栄養学科	80	1	3	3	1	3.0
計	80	1	3	3	1	-
合計	260	6	7	6	4	-

《特別選抜入試》

【海外帰国子女入試】

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
日本語コミュニケーション学科	80	若干名	0	0	0	-
英語コミュニケーション学科	100	若干名	観光ビジネスコース	0	0	-
			国際コミュニケーションコース	0	0	-
計	180	-	0	0	0	-
食物栄養学科	80	若干名	1	1	1	1.0
計	80	-	1	1	1	-
合計	260	-	1	1	1	-

【社会人入試】

倍率＝受験者／合格者

学科・コース	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
日本語コミュニケーション学科	80	若干名	2	2	2	1.0	
英語コミュニケーション学科	100	若干名	観光ビジネスコース	0	0	0	-
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	-
計	180	-	2	2	2	-	
食物栄養学科	80	若干名	2	2	2	1.0	
計	80	-	2	2	2	-	
合 計	260	-	4	4	4	-	

《AO入試》 ※募集人員はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ期を合わせた人数

【Ⅰ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	インリ-者数	志願者数	受験者数	合格者数	
日本語コミュニケーション学科	80	10	5	5	5	5	
英語コミュニケーション学科	100	15	観光ビジネスコース	2	2	2	2
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	0
計	180	25	7	7	7	7	
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-	
計	80	-	-	-	-	-	
合 計	260	25	7	7	7	7	

【Ⅱ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	インリ-者数	志願者数	受験者数	合格者数	
日本語コミュニケーション学科	80	10	1	1	1	1	
英語コミュニケーション学科	100	15	観光ビジネスコース	1	0	0	0
			国際コミュニケーションコース	2	2	2	2
計	180	25	4	3	3	3	
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-	
計	80	-	-	-	-	-	
合 計	260	25	4	3	3	3	

【Ⅲ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	インリ-者数	志願者数	受験者数	合格者数	
日本語コミュニケーション学科	80	10	6	6	6	6	
英語コミュニケーション学科	100	15	観光ビジネスコース	1	1	1	1
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	0
計	180	25	7	7	7	7	
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-	
計	80	-	-	-	-	-	
合 計	260	25	7	7	7	7	

【Ⅳ期】

学科・コース	入学定員	※募集人員	インリ-者数	志願者数	受験者数	合格者数	
日本語コミュニケーション学科	80	10	3	3	3	3	
英語コミュニケーション学科	100	15	観光ビジネスコース	0	0	0	0
			国際コミュニケーションコース	0	0	0	0
計	180	25	3	3	3	3	
食物栄養学科	80	-	-	-	-	-	
計	80	-	-	-	-	-	
合 計	260	25	3	3	3	3	

2012年度入学試験結果 (大学：編入学)

《編入学試験》

【一般編入学／Ⅰ期】※募集人員は一般編入学Ⅰ期・Ⅱ期を合わせた人数(*人間社会学科を除く)

学部・学科・専攻		編入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	15	5	0	0	0	
	英文学科	15	5	3	3	2	
	美学美術史学科	10	4	0	0	0	
	計	40	14	3	3	2	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	14	若干名	8	8	3
		食物科学専攻	5	3	0	0	0
	生活環境学科	10	6	0	0	0	
	生活文化学科	生活文化専攻	10	4	0	0	0
		幼児保育専攻	5	若干名	1	1	0
	計	44	-	9	9	3	
学社人 部会 会間	人間社会学科	20	* 5	0	0	0	
	計	20	5	0	0	0	
合 計		104	-	12	12	5	

【一般編入学／Ⅱ期】※募集人員は一般編入学Ⅰ期・Ⅱ期を合わせた人数(*人間社会学科を除く)

学部・学科・専攻		編入学定員	※募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	15	5	2	2	2	
	英文学科	15	5	4	4	2	
	美学美術史学科	10	4	2	2	1	
	計	40	14	8	8	5	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	14	若干名	4	4	0
		食物科学専攻	5	3	1	1	0
	生活環境学科	10	6	2	2	1	
	生活文化学科	生活文化専攻	10	4	0	0	0
		幼児保育専攻	5	若干名	0	0	0
	計	44	-	7	7	1	
学社人 部会 会間	人間社会学科	20	* 5	8	8	2	
	計	20	5	8	8	2	
合 計		104	-	23	23	8	

【内部編入学】

学部・学科・専攻		編入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	国文学科	15	10	9	9	9	
	英文学科	15	10	5	5	5	
	美学美術史学科	10	6	1	1	1	
	計	40	26	15	15	15	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	14	若干名	2	2	2
		食物科学専攻	5	2	1	1	1
	生活環境学科	10	4	2	2	2	
	生活文化学科	生活文化専攻	10	6	3	3	3
		幼児保育専攻	5	若干名	0	0	0
	計	44	-	8	8	8	
学社人 部会 会間	人間社会学科	20	10	6	6	6	
	計	20	10	6	6	6	
合 計		104	-	29	29	29	

2012年度入学試験結果 (大学院)

研究科・専攻	志願者等	内部				一般				社会人				外国人				計	
		I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期	I期	II期	III期	IV期		
文学研究科	国文学専攻(博士後期)	志願者	-	0	1	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	1
	合格者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0	
	国文学専攻(博士前期)	志願者	-	2	1	-	-	2	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	5
	合格者	-	1	1	-	-	2	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	4	
	英文学専攻(修士)	志願者	-	0	1	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	1
	合格者	-	0	1	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	1	
美術史学専攻(博士後期)	志願者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0	
	合格者	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	0	
美術史学専攻(博士前期)	志願者	-	2	2	-	-	1	0	-	-	1	0	-	-	0	0	-	6	
	合格者	-	1	2	-	-	1	0	-	-	0	0	-	-	0	0	-	4	
生活科学研究科	食物栄養学専攻(博士後期)	志願者	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0
	合格者	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
	食物栄養学専攻(博士前期)	志願者	0	2	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	2
	合格者	0	2	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	2	
	生活環境学専攻(修士)	志願者	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	合格者	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
人間社会専攻(修士)	志願者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合格者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	志願者	0	8	7	1	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	20	
	合格者	0	6	6	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	

2012年度 実践女子学園中学校入試結果

■スタンダード実践クラス(SJC)

	第1回	第2回	第3回	一般合計	帰国1	帰国2	帰国合計	SJC合計
募集人数	90	70	60	220	合計20		20	240
志願者数	208	468	464	1140	30	21	51	1191
受験者数	181	240	129	550	30	8	38	588
合格者数	136	196	76	408	26	6	32	440
追加合格	0	0	0	0	0	0	0	0

■グローバルスタディーズクラス(GSC)

	一般入試	帰国1	帰国2	帰国合計	GSC合計
募集人数	合計35				35
志願者数	37	31	15	46	83
受験者数	37	31	3	34	71
合格者数	36	28	3	31	67
追加合格	0	1	0	1	1

■得点状況(一般入試)

	科目	配点・時間	全受験生		合格者	
			最高点	平均点	合格者平均点	合格者最低点
第1回	国語	100点・50分	92	60	63	
	算数	100点・50分	94	55	60	
	社会	50点 50分	46	29	31	
	理科	50点 50分	39	21	23	
	4科合計			238	165	178
第2回	国語	100点・50分	88	62	65	
	算数	100点・50分	100	59	63	
	社会	50点 50分	45	27	29	
	理科	50点 50分	40	22	23	
	4科合計			240	170	180
第3回	国語	100点・50分	81	49	56	
	算数	100点・50分	87	52	63	
	社会	50点 50分	42	23	28	
	理科	50点 50分	37	17	20	
	4科合計			225	141	167
GSC	国語	3科 100点・50分	59	44	44	
		4科 100点・50分	81	60	61	
	算数	3科 100点・50分	68	33	33	
		4科 100点・50分	87	53	55	
	英語	100点・50分	83	54	54	
	社会	50点 50分	43	29	30	
	理科	50点 50分	40	26	26	
	3科合計(国・算・英)			157	132	132
4科合計(国・算・社・理)			223	168	172	127

* 合格は4教科(3教科)の合計による判定のため、科目ごとの合格最低点は非公表

* 帰国生入試は、学科試験・面接・作文の総合判定のため、学科試験のみの得点は非公表

平成23年度(平成24年3月)卒業生 進路状況及び業種別就職状況(大学・短期大学)

平成24年5月1日現在

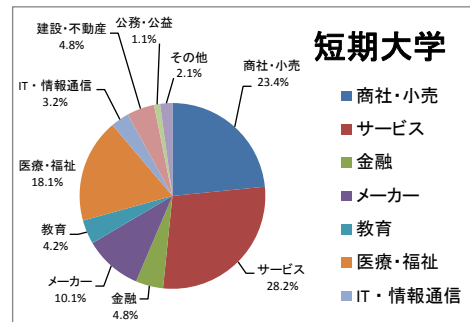
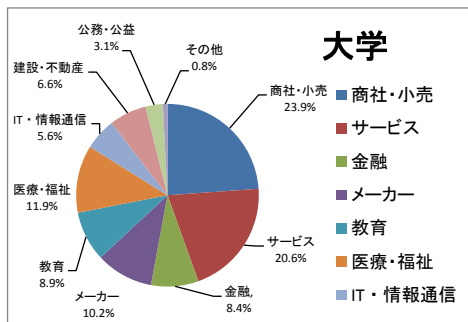
【進路状況】

	学 部	卒業生数	進 路 希 望 (進学・留学は決定者)					就職 内定者	就職 内定率
			就職	進学 [大学院・大学]	進学 [専門学校]	留学	その他		
大 学	文 学 部	365	273 (74.8%)	10 (2.7%)	10 (2.7%)	3 (0.8%)	69 (18.9%)	222 (64.9%)	81.3%
	生活科学部	334	302 (90.4%)	7 (2.1%)	7 (2.1%)	0 (0.0%)	18 (5.4%)	271 (84.7%)	89.7%
	人間社会学部	166	139 (83.7%)	3 (1.8%)	2 (1.2%)	1 (0.6%)	21 (12.7%)	127 (79.4%)	91.4%
	大 学 計	865	714 (82.5%)	20 (2.3%)	19 (2.2%)	4 (0.5%)	108 (12.5%)	620 (75.4%)	86.8%
短 期 大 学		335	241 (71.9%)	54 (16.1%)	11 (3.3%)	4 (1.2%)	25 (7.5%)	188 (70.7%)	78.0%
合 計		1200	955 (79.6%)	74 (6.2%)	30 (2.5%)	8 (0.7%)	133 (11.1%)	808 (74.3%)	84.6%

卒業生数以外の数字は学生の申告を基に算出しています。

【業種別就職状況】

	文学部	生活科学部	人間社会学部	大 学	短期大学	合 計
商社・小売	51 (23.0%)	67 (24.7%)	30 (23.6%)	148 (23.9%)	44 (23.4%)	192 (23.8%)
サービス	54 (24.3%)	41 (15.1%)	33 (26.0%)	128 (20.6%)	53 (28.2%)	181 (22.4%)
金融	24 (10.8%)	14 (5.2%)	14 (11.0%)	52 (8.4%)	9 (4.8%)	61 (7.5%)
メーカー	17 (7.7%)	33 (12.2%)	13 (10.2%)	63 (10.2%)	19 (10.1%)	82 (10.1%)
教育	19 (8.6%)	34 (12.5%)	2 (1.6%)	55 (8.9%)	8 (4.2%)	63 (7.8%)
医療・福祉	19 (8.6%)	46 (17.0%)	9 (7.1%)	74 (11.9%)	34 (18.1%)	108 (13.4%)
IT・情報通信	13 (5.9%)	10 (3.7%)	12 (9.4%)	35 (5.6%)	6 (3.2%)	41 (5.1%)
建設・不動産	11 (5.0%)	16 (5.9%)	14 (11.0%)	41 (6.6%)	9 (4.8%)	50 (6.2%)
公務・公益	10 (4.5%)	9 (3.3%)	0 (0.0%)	19 (3.1%)	2 (1.1%)	21 (2.6%)
その他	4 (1.8%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	5 (0.8%)	4 (2.1%)	9 (1.1%)
合 計	222	271	127	620	188	808



平成23年度 修了生数及び学位授与数(大学院)

【修了生数】

専 攻 名		修了生数	満期退学
文学研究科	国文学専攻	博士後期課程	0
		博士前期課程	4
	英文学専攻	修士課程	0
	美術史学専攻	修士課程	5
生活科学研究科	食物栄養学専攻	博士後期課程	0
		博士前期課程	3
	生活環境学専攻	修士課程	1
人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	1
合 計		14	4

【学位授与数】

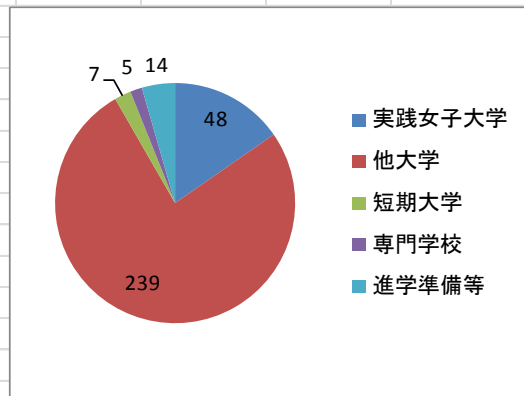
学位名	人数
博士(文学)	0
博士(食物栄養学)	1
修士(文学)	10
修士(食物栄養学)	3
修士(生活科学)	1
修士(人間社会)	1
合 計	16

* 修了生数・学位授与数は9月修了生を含む。

平成23年度 高等学校卒業生進学状況（卒業生313名）

平成23年度高等学校卒業生進学状況

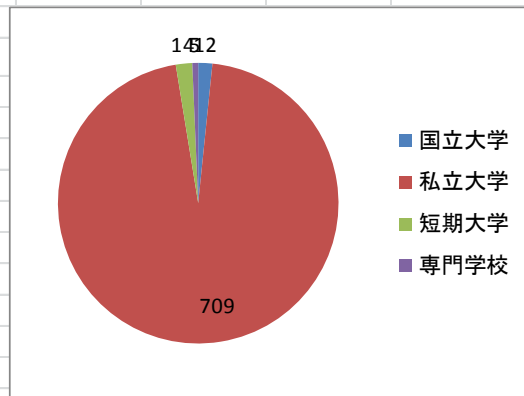
	人数	%
実践女子大学	48	15.3
他大学	239	76.4
短期大学	7	2.2
専門学校	5	1.6
進学準備等	14	4.5
合計	313	100



平成23年度大学等合格状況

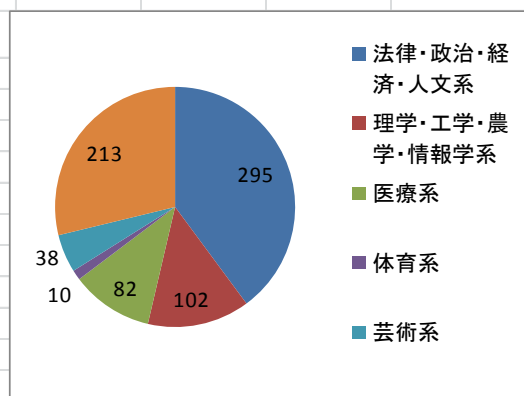
【合格実績】

	人数	%
国立大学	12	1.6
私立大学	709	95.8
短期大学	14	1.9
専門学校	5	0.7
合計	740	100



【分野別合格実績】

	人数	%
法律・政治・経済・人文系	295	39.9
理学・工学・農学・情報学系	102	13.8
医療系	82	11.1
体育系	10	1.3
芸術系	38	5.1
女子大学系	213	28.8
合計	740	100



III 財務の概要¹

決算書類等

平成 23 年度財務の概要を説明するにあたり、以下の計算書類等を添付しました。

- (1) 資金収支計算書（総括表）
- (2) 消費収支計算書（総括表）
- (3) 貸借対照表（総括表）

(各計算書類の詳細は、学園ウェブサイト内 財務情報公開ページ <<http://www.jissen.ac.jp/sonoma/a07a05a03>> に掲載している「平成 23 年度 計算書類」をご確認ください。)

1 資金収支計算書の状況 (P. 49「資金収支計算書（総括表）」)

資金収支計算書は、平成 23 年度中の全資金の流れを表示したものです。

前年度繰越支払資金	47 億 509 万円	(B)
<u>当年度資金収入</u>	<u>111 億 9,370 万円</u>	(A)
総資金収入	158 億 9,879 万円	(C)
当年度資金支出	108 億 3,263 万円	(D)

当年度中の資金収入額は 111 億 9,370 万円 (A) で、これに平成 22 年度からの繰越支払資金 47 億 509 万円 (B) を加えると、資金収入総額は 158 億 9,879 万円 (C) となりました。これに対して平成 23 年度の教育研究活動等の資金支出総額は 108 億 3,263 万円 (D) で、したがって平成 24 年度に繰り越される支払資金 (C-D) は 50 億 6,616 万円 (E) となりました。

2 消費収支計算書の状況 (P. 49「消費収支計算書（総括表）」)

消費収支計算書は、平成 23 年度中の消費収入と消費支出との均衡状態を示すものです。

当年度帰属収入	81 億 6,704 万円	① (消費収支計算書総括表 a~g 合計)
<u>基本金組入額</u>	<u>3 億 6,701 万円</u>	②
消費収入	78 億 3 万円	③ (① - ②)
消費支出	78 億 2,865 万円	④ (消費収支計算書総括表 h~n 合計)

(1) 帰属収入 P. 49「図 1. ①帰属収入内訳」

学生生徒等納付金(a)は、学生生徒数が 6,265 名 (5 月 1 日現在) で、納付金総額では予算比 7,183 万円増の 63 億 7,040 万円となりました。

手数料(b)は、志願者数の変動から入学検定料が予算比 1,857 万円増の 1 億 5,757 万円になったことなどにより、総額では予算比 1,824 万円増の 1 億 6,678 万円となりました。

寄付金(c)は、創立 120 周年記念 1 期整備計画寄付金が 1 億 3,421 万円、大学・短期大学後援会寄付金が 2,200 万円、教職員奨学資金寄付金が 505 万円、現物寄付 443 万円などで、寄付金総額では 2 億 391 万円(予算比 2,206 万円増)となりました。

補助金(d)は、国からの主に大学・短期大学に対する国庫補助金 4 億 1,568 万円のほか、東京都からの主に中学校高等学校への地方公共団体補助金 5 億 9,099 万円により、総額で 10 億 667 万円(予算比 650 万円減)となりました。

これらの結果、帰属収入総額 (①) は 81 億 6,704 万円(予算比 895 万円増)となりました。

¹ 文中の「予算」は平成 23 年度補正予算を示す。

(2) 基本金組入額

第1号基本金は、校舎、構築物、機器備品、図書等の施設設備および過年度において資産取得に充てた借入金の当期元金返済分、リース未払金の当期支払額等1億4,701万円を組み入れました。

第2号基本金は、学部学科改革(創立120周年記念)整備資金として、2億円を組み入れました。

第3号基本金は、奨学基金拡充のため前年度と同額の2,000万円を組み入れました。

基本金組入額総額(②)では予算比3億5,522万円減の3億6,701万円を組み入れました。

以上により、消費収入の部合計(③)は対予算額で4億4,472万円増加の78億3万円となりました。

(3) 消費支出 P.49「図2. ④消費支出内訳」

支出面では、最も多額な費用を要したのは人件費(h)です。消費支出総額の60.7%にあたる47億5,402万円を支出しました。これに教育研究経費(i)等を加えた消費支出の部合計額(④)は、予算額を186万円上回る78億2,865万円となりました。

なお、当年度より奨学貸付金(長期貸付金)に係る徴収不能引当金を設定し、繰入額として33万円を計上しています。

(4) 消費収支差額

以上から、当年度の消費収支差額(⑤)は2,862万円(④-③)の支出超過となり、累積消費支出超過額(o)は1億9,557万円に増加しました。

3 貸借対照表の状況 (P.50「貸借対照表(総括表)」)

貸借対照表は、当期末時点での財政状態を表した計算書で、学園の資産と負債・基本金・消費収支差額の状態を示しています。企業会計と異なり、学校会計においては資本の概念が無いため、基本金として組み入れている金額と当期末までの消費収支計算の結果である消費収支差額が、貸借対照表の貸方に計上されていることが大きな特徴となっています。

(1) 資産総額

資産総額(ア)は382億566万円で、その内訳は有形固定資産184億9,296万円、その他の固定資産144億4,303万円および流動資産52億6,967万円となりました。中高新体育館の竣工等により有形固定資産が3億1,218万円増加し、その支払に充当するために取り崩した施設設備維持引当特定資産が5億4,312万円、学部学科改革整備資金引当特定資産が2億円減少しました。

(2) 負債総額

負債総額(イ)は63億3,674万円となりました。その内訳は固定負債43億9,671万円、流動負債が19億4,003万円となっています。

(3) 基本金

基本金(ウ)は320億6,449万円となりました。その内訳は、校地・校舎・機器備品・図書など教育研究に必要な資産の自己資金調達額を示す第1号基本金が286億5,656万円、

創立 120 周年記念整備事業資金を留保するための第 2 号基本金が 20 億円、奨学基金・教育研究基金などの運用果実を教育研究に充てるための第 3 号基本金が 7 億 8,000 万円等となっています。

(4) 消費収支差額

翌年度繰越消費支出超過額(エ)は、2,862 万円の当年度支出超過によって、当期末は 1 億 9,557 万円となりました。

4 収益事業決算の状況 (P. 50 「収益事業会計」)

学園寄附行為第 6 条に基づく保険代理業にかかわる計算書類です。公益事業である学校運営遂行のため、主に学生・生徒総合補償制度保険により収益をあげ、学校会計に寄付することを目的としています。なお、収益事業会計の決算報告書数値は千円未満を調整し、千円単位としています。

(1) 損益計算書

損害保険手数料の営業収入等 7,322 千円から印刷費等の営業費用 1,570 千円を控除した営業利益に、預金等の受取利息である営業外損益を加えた経常利益は 5,756 千円となりました。このうち、学校会計への寄付金 4,800 千円、法人税等充当金 600 千円を支出した結果、当期純利益は 356 千円となりました。

なお、学校会計への繰入金支出は、学校会計の事業収入科目「収益事業収入」に計上されています。

(2) 貸借対照表

当期の資産合計は 32,900 千円で、負債合計は 23,275 千円、純資産合計は 9,625 千円となりました。なお、純資産の部の出資金 1,000 千円は学校会計の貸借対照表科目「その他の固定資産：収益事業元入金」の金額と一致しています。

5 今後の財政上の課題

当期は、消費支出が消費収入を上回り消費支出超過となりました。今後も大学・短期大学改革をはじめとした学園の諸改革を実現するため、積極的な施設設備投資と 2 拠点化に伴う経常経費増が見込まれています。これにより、単年度の収支悪化と繰越消費支出超過額の累計額拡大が懸念されます。

これを回避するためには、教職員数管理等による人件費抑制、業務効率化/平準化・事務組織改革などによる支出管理と、教学改革ならびに渋谷校地活用による学生生徒数確保と収益性改善など、財政バランスの維持に努めなければなりません。「繰越支払資金」や「引当特定資産」の保有水準と消費収支差額の状況を把握した上で、目標値の設定を行い、資金計画ならびに設置認可に伴う財源確保の策定方針を確立・遂行する必要があります。

参考として、末尾に今年度の部門別消費収支計算書・比率表を添付しました (P. 57)。学園改革の遂行には財務の健全性維持が欠かせないことから、各部門の事業内容・収支構造分析に基づいた対応策を順次講じていかなければなりません。

消費収支計算書・貸借対照表の5年間推移（平成19年度～平成23年度）

過去5年間の財務状況推移を確認する資料として、P.51以降に推移・比較表を添付しました（表ならびにグラフの金額については、百万円未満を調整し百万円単位としています）。

1 消費収支の推移

（P.51「消費収支の推移表」、P.54 図表 参照）

平成23年度は、2,900万円の消費支出超過となりました。前年度が3億3,500万円の消費収入超過でありましたので、前年比3億6,400万円の収支悪化となりました。

5年間の推移では、帰属収入について平成19年度以降84億円前後で安定的に推移していましたが、当年度は81億6,700万円と若干減少しました。これは、学部学科改組による学生生徒等納付金の減少が影響したものです。

2 貸借対照表の推移

（P.51「貸借対照表の推移表」、P.55-57 図表 参照）

平成23年度の学園財務状況を見ると、資産総額は382億600万円で平成19年度の362億800万円より19億9,800万円増加しています。5年間の推移として見ても、毎年着実な増加が確認できます。平成19年度と平成23年度の比較内訳は、投資した資金を長期間にわたって回収しなければならない「有形固定資産」が6億1,200万円減少の184億9,300万円に対し、主として金融資産である「その他の固定資産」は20億400万円増加の144億4,300万円となりました。金融資産のうち、将来の事業財源となる「第2号基本金引当資産」、奨学基金の「第3号基本金引当資産」等が着実に増加しています。「流動資産」は、平成23年度が52億7,000万円で平成19年度に比し6億600万円増加しました。「現金預金」もほぼ同額の増加にとどまっています。一方、平成19年度と平成20年度には、保有する「現金預金」を主として「施設設備維持引当特定資産」「第2号基本金引当資産」等に積み立てており、例えば減価償却累計額に対する施設設備維持引当特定資産の割合は平成19年度の56.3%から平成23年度には74.3%へと高まっています。

負債総額は、平成23年度が63億3,700万円で平成19年度より1億1,000万円減少しています。資産総額との比率でも、着実に減少しています（総負債比率17.8%→16.6%）。退職給与引当資産額は19億3,600万円で退職給与引当資産率（退職給与引当特定資産/退職給与引当金）は68.5%となり、同規模大学法人の平均水準（62.0%）を上回っていますが、医療法人を除いた全国平均水準（69.4%）には届かない状況にあります。また、負債総額のうち長期借入金は日本私立学校振興・共済事業団から借り入れた校舎建設資金で、毎年着実に返済・減少しています。

基本金は、平成23年度は320億6,500万円で平成19年度の307億6,400万円より13億100万円の増加となりました。

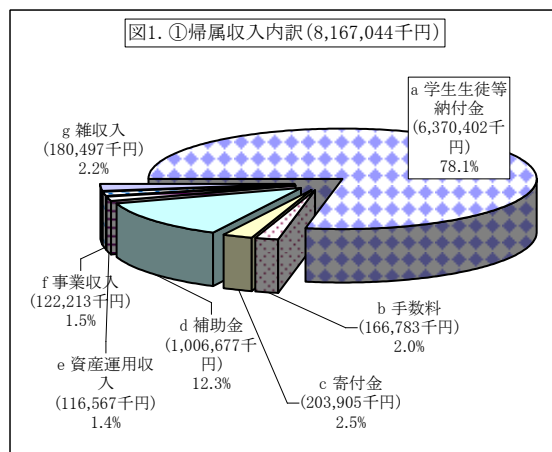
消費収支差額（繰越消費支出超過額）は、平成23年度は平成19年度に比し8億700万円減少の1億9,600万円となり、総資金に占める割合（消費収支差額構成比率）は△0.5%に改善しております。これと同時に、自己資金（基本金+消費収支差額）も平成19年度は297億6,100万円であったのが平成23年度は318億6,900万円となり、21億800万円増加しています。自己資金構成比率（自己資金/総資金）も82.2%から83.4%に改善が認められます。

[学校会計]

資金収支計算書(総括表) (単位:千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	6,298,564	6,370,402	△ 71,838
手数料収入	148,545	166,783	△ 18,238
寄付金収入	181,847	199,467	△ 17,620
補助金収入	1,013,178	1,006,677	6,501
資産運用収入	160,620	116,567	44,053
事業収入	117,294	122,213	△ 4,919
雑収入	157,496	180,497	△ 23,001
前受金収入	1,004,669	1,222,682	△ 218,013
その他の収入	2,719,928	3,211,756	△ 491,828
資金収入調整勘定	△ 1,376,616	△ 1,403,344	26,728
前年度繰越支払資金	4,705,087	4,705,087	
収入の部合計	15,130,612	15,898,787	△ 768,175
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,780,813	4,819,461	△ 38,648
教育研究経費支出	1,660,175	1,569,179	90,996
管理経費支出	491,325	545,259	△ 53,934
借入金等利息支出	29,210	29,210	0
借入金等返済支出	138,870	138,870	0
施設関係支出	957,684	1,045,984	△ 88,300
設備関係支出	186,730	192,415	△ 5,685
資産運用支出	568,159	563,375	4,784
その他の支出	2,051,353	2,167,535	△ 116,182
予備費	50,000		50,000
資金支出調整勘定	△ 112,990	△ 238,665	125,675
次年度繰越支払資金	4,329,283	5,066,164	△ 736,881
支出の部合計	15,130,612	15,898,787	△ 768,175

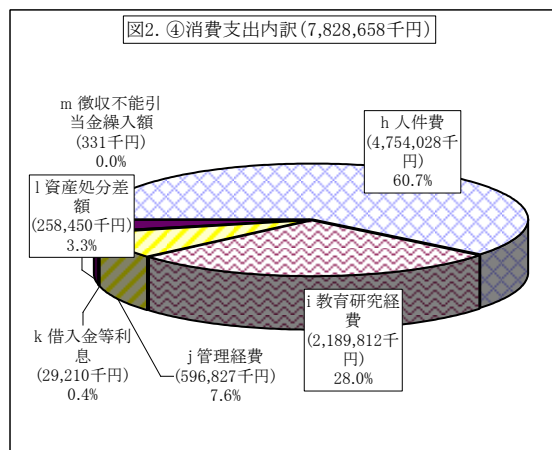
[図表 消費収支計算書]



消費収支計算書(総括表) (単位:千円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	6,298,564	6,370,402	△ 71,838
手数料	148,545	166,783	△ 18,238
寄付金	181,847	203,905	△ 22,058
補助金	1,013,178	1,006,677	6,501
資産運用収入	160,620	116,567	44,053
事業収入	117,294	122,213	△ 4,919
雑収入	157,496	180,497	△ 23,001
① 帰属収入合計	8,077,544	8,167,044	△ 89,500
② 基本金組入額合計	△ 722,235	△ 367,012	△ 355,223
③ 消費収入の部合計	7,355,309	7,800,032	△ 444,723
消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	4,726,196	4,754,028	△ 27,832
教育研究経費	2,253,442	2,189,812	63,630
管理経費	541,511	596,827	△ 55,316
借入金等利息	29,210	29,210	0
資産処分差額	226,436	258,450	△ 32,014
徴収不能引当金繰入額	0	331	△ 331
予備費	50,000		50,000
④ 消費支出の部合計	7,826,795	7,828,658	△ 1,863
⑤ 当年度消費支出超過額	471,486	28,626	
n 前年度繰越消費支出超過額	166,946	166,946	
o 翌年度繰越消費支出超過額	638,432	195,572	

図2. ④消費支出内訳(7,828,658千円)



[学校会計]

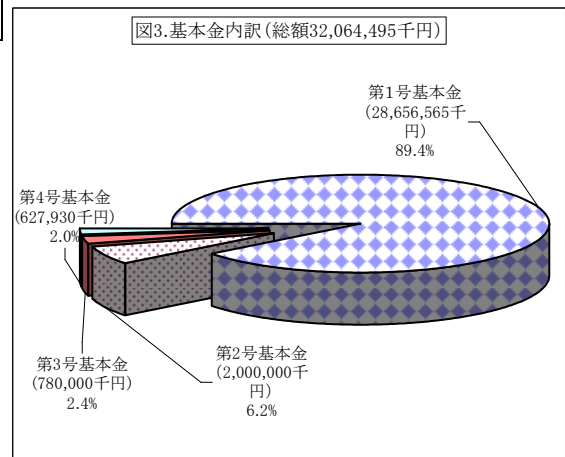
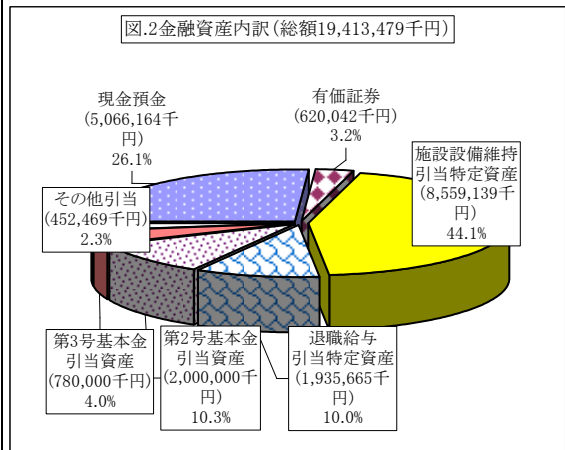
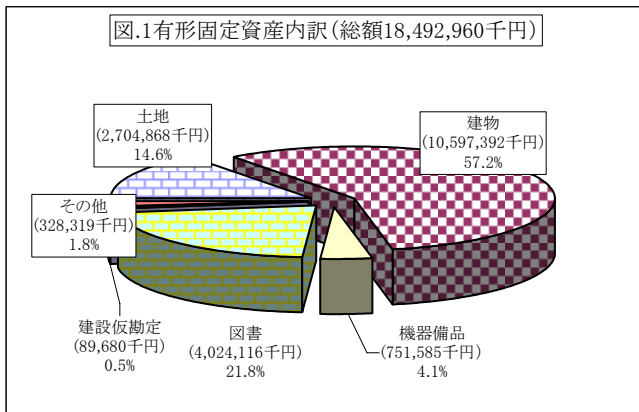
貸借対照表(総括表)

(単位:千円)

[図表 貸借対照表]

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
[資産の部]			
固定資産	32,935,997	33,071,056	△ 135,059
有形固定資産	18,492,960	18,180,775	312,185
その他の固定資産	14,443,037	14,890,281	△ 447,244
流動資産	5,269,670	5,023,011	246,659
(ア) 資産の部合計	38,205,667	38,094,067	111,600
[負債の部]			
固定負債	4,396,718	4,677,864	△ 281,146
流動負債	1,940,026	1,885,666	54,360
(イ) 負債の部合計	6,336,744	6,563,530	△ 226,786
[基本金の部]			
基本金の部合計	32,064,495	31,697,483	367,012
(ウ) [消費収支差額の部]			
消費収支差額の部合計	△ 195,572	△ 166,946	△ 28,626
(エ) 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	38,205,667	38,094,067	111,600



[収益事業会計]

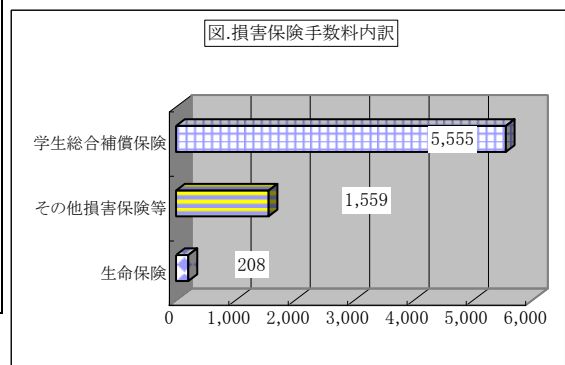
損益計算書(総括表)

(単位:千円)

[図表 損益計算書]

(単位:千円)

科目	本年度	前年度	増減
営業損益			
損害保険手数料	7,322	6,905	417
一般管理費	1,570	1,288	282
営業利益	5,752	5,617	135
営業外収益	4	18	△ 14
経常利益	5,756	5,635	121
一般会計繰入金支出(寄付金)	4,800	4,800	0
税引前当期利益	956	835	121
法人税等充当金繰入額	600	100	500
当期純利益	356	735	△ 379



貸借対照表(総括表)

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
[資産の部]			
流動資産	32,900	34,276	△ 1,376
資産の部合計	32,900	34,276	△ 1,376
[負債の部]			
流動負債	23,275	25,007	△ 1,732
負債の部合計	23,275	25,007	△ 1,732
[純資産の部]			
出資金	1,000	1,000	0
繰越利益剰余金	8,625	8,269	356
純資産の部合計	9,625	9,269	356
負債・純資産の部合計	32,900	34,276	△ 1,376

1 消費収支の推移表

□

(単位 百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
学生生徒等納付金	6,559	6,385	6,460	6,545	6,370
手数料	145	173	170	168	167
寄付金	94	107	90	93	204
補助金	1,036	1,008	1,067	1,072	1,007
その他の収入	600	562	657	589	419
帰属収入合計	8,434	8,235	8,444	8,467	8,167
基本金組入額	△ 69	△ 554	△ 178	△ 201	△ 367
消費収入の部合計	8,365	7,681	8,266	8,266	7,800
人件費	5,017	5,088	5,415	5,135	4,754
教育研究経費	1,831	1,853	1,879	1,924	2,190
(内、減価償却額)	(616)	(657)	(653)	(636)	(621)
管理経費	528	509	535	627	597
(内、減価償却額)	(57)	(60)	(57)	(54)	(52)
借入金等利息	40	37	35	32	29
その他の支出	94	46	49	213	259
消費支出の部合計	7,510	7,533	7,913	7,931	7,829
消費収支差額	855	148	353	335	△ 29
帰属収支差額	924	702	531	536	338

2 貸借対照表の推移表

(単位 百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
固定資産	31,544	32,884	32,906	33,071	32,936
有形固定資産	19,105	18,626	18,505	18,181	18,493
土地	2,705	2,705	2,705	2,705	2,705
建物	11,280	10,890	10,675	10,141	10,597
その他	5,120	5,031	5,125	5,335	5,191
その他の固定資産	12,439	14,258	14,401	14,890	14,443
長期有価証券	1,764	3	10	320	620
特定資産	8,296	11,471	11,491	11,508	10,947
(内、退職給与引当特定資産)	(1,936)	(1,936)	(1,936)	(1,936)	(1,936)
(内、施設備維持引当特定資産)	(5,956)	(9,099)	(9,101)	(9,102)	(8,559)
第2号基本金特定資産	1,550	1,950	2,050	2,200	2,000
第3号基本金特定資産	700	720	740	760	780
その他	129	114	110	102	96
流動資産	4,664	3,961	4,868	5,023	5,270
現金預金	4,387	3,720	4,522	4,705	5,066
短期有価証券	0	0	0	0	0
その他	277	241	346	318	204
資産の部合計	36,208	36,845	37,774	38,094	38,206
固定負債	4,641	4,447	4,813	4,678	4,397
長期借入金	1,794	1,655	1,516	1,378	1,239
退職給与引当金	2,776	2,725	2,892	2,893	2,828
その他	71	67	405	407	330
流動負債	1,806	1,936	1,967	1,886	1,940
短期借入金	139	139	139	139	139
前受金	1,281	1,385	1,383	1,252	1,223
その他	386	412	445	495	578
負債の部合計	6,447	6,383	6,780	6,564	6,337
第1号基本金	27,886	28,021	28,078	28,109	28,657
第2号基本金	1,550	1,950	2,050	2,200	2,000
第3号基本金	700	720	740	760	780
その他	628	628	628	628	628
基本金の部合計	30,764	31,318	31,496	31,697	32,065
消費収支差額の部合計	△ 1,003	△ 856	△ 502	△ 167	△ 196
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	36,208	36,845	37,774	38,094	38,206

注記

減価償却額の累計額の合計額	10,579	11,053	11,202	11,464	11,512
減価償却資産取得価額	23,208	23,138	23,060	22,727	23,187
基本金未組入額	1,800	1,661	1,631	1,538	1,352

財務比率比較表

財務比率区分			実践女子学園					全国平均	全国平均 (医療法人除)	同規模 法人平均	
			H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度				
貸 借 対 照 表 関 係 比 率	1	固定資産 構成比率	固定資産 総資産	87.1	89.2	87.1	86.8	86.2	86.3	87.0	85.3
	2	流動資産 構成比率	流動資産 総資産	12.9	10.8	12.9	13.2	13.8	13.7	13.0	14.7
	3	固定負債 構成比率	固定負債 総負債	12.8	12.1	12.7	12.3	11.5	8.9	7.4	8.2
	4	流動負債 構成比率	流動負債 総負債	5.0	5.3	5.2	5.0	5.1	5.9	5.5	5.8
	5	自己資金 構成比率	自己資金 総資産	82.2	82.7	82.1	82.8	83.4	85.3	87.2	86.0
	6	消費収支差額 構成比率	消費収支差額 総資産	-2.8	-2.3	-1.3	-0.4	-0.5	-13.8	-9.3	-8.4
	7	固定比率	固定資産 自己資金	106.0	108.0	106.2	104.9	103.3	101.2	99.8	99.2
	8	固定長期 適合理率	固定資産 自己資金+固定負債	91.7	94.2	91.9	91.3	90.8	91.7	92.1	90.3
	9	流動比率	流動資産 流動負債	258.3	204.6	247.5	266.3	271.6	233.2	236.6	252.6
	10	総負債比率	総負債 総資産	17.8	17.3	17.9	17.2	16.6	14.7	12.8	14.0
	11	負債比率	総負債 自己資金	21.7	21.0	21.9	20.8	19.9	17.3	14.7	16.3
	12	前受金保有比率	現金預金 前受金	342.5	268.6	326.9	375.8	414.2	335.0	305.8	320.6
	13	退職給与 引当資産率	退職給与引当特定資産 退職給与引当金	69.7	71.0	66.9	66.9	68.5	61.2	69.4	62.0
	14	基本金比率	基本金 基本金要組入額	93.5	94.1	95.0	94.9	95.6	96.7	97.0	97.0
	15	減価償却比率	減価償却累計額 減価償却資産取得価額	45.6	47.8	48.6	50.4	49.6	47.7	45.0	47.0
消 費 収 支 計 算 書 関 係 比 率	1	人件費比率	人件費 帰属収入	59.5	61.8	64.1	60.6	58.2	49.7	52.9	51.1
	2	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	76.5	79.7	83.8	78.5	74.6	93.3	72.0	78.5
	3	教育研究経費 比率	教育研究経費 帰属収入	21.7	22.5	22.3	22.7	26.8	35.8	30.9	31.4
	4	管理経費比率	管理経費 帰属収入	6.3	6.2	6.3	7.4	7.3	7.2	8.8	9.0
	5	借入金等 利息比率	借入金等利息 帰属収入	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5
	6	帰属収支 差額比率	帰属収入-消費支出 帰属収入	11.0	8.5	6.3	6.3	4.1	4.6	4.4	2.2
	7	消費収支比率	消費支出 消費収入	89.8	98.1	95.7	95.9	100.4	107.5	110.5	109.5
	8	学生生徒等 納付金比率	学生生徒等納付金 帰属収入	77.8	77.5	76.5	77.3	78.0	53.3	73.4	65.1
	9	寄付金比率	寄付金 帰属収入	1.1	1.3	1.1	1.1	2.5	2.3	2.6	1.5
	10	補助金比率	補助金 帰属収入	12.3	12.2	12.6	12.7	12.3	10.2	12.4	11.3
	11	基本金組入率	基本金組入額 帰属収入	0.8	6.7	2.1	2.4	4.5	11.3	13.4	10.7
	12	減価償却費 率	減価償却額 消費支出	9.0	9.5	8.4	8.1	8.2	9.9	11.5	10.7

(注) 1.総資産=負債+基本金+消費収支差額 自己資金=基本金+消費収支差額

2.学園以外の数値は平成22年度(日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」平成23年度版より転用)。

[財務比率説明表]

貸借対照表関係比率

分類	番号	比率名	算式	評価
自己資金は充実しているか	5	自己資金構成比率	$(\text{基本金} + \text{消費収支差額}) \div \text{総資産}$	△
	6	消費収支差額構成比率	$\text{消費収支差額} \div \text{総資産}$	△
	14	基本金比率	$(\text{第1号}) \text{基本金} \div \text{基本金要組入額}$	△
長期資金で固定資産は賄われているか	7	固定比率	$\text{固定資産} \div \text{自己資金}$	▼
	8	固定長期適合率	$\text{固定資産} \div (\text{自己資金} + \text{固定負債})$	▼
資産構成はどうなっているか	1	固定資産構成比率	$\text{固定資産} \div \text{総資産}$	▼
	2	流動資産構成比率	$\text{流動資産} \div \text{総資産}$	△
	15	減価償却比率	$\text{減価償却累計額} \div \text{減価償却資産取得価額}$	～
負債に備える資産が蓄積されているか	9	流動比率	$\text{流動資産} \div \text{流動負債}$	△
	12	前受金保有比率	$\text{現金預金} \div \text{前受金}$	△
	13	退職給与引当金資産率	$\text{退職給与引当特定資産} \div \text{退職給与引当金}$	△
負債の割合はどうか	3	固定負債構成比率	$\text{固定負債} \div \text{総資産}$	▼
	4	流動負債構成比率	$\text{流動負債} \div \text{総資産}$	▼
	10	総負債比率	$(\text{固定負債} + \text{流動負債}) \div \text{総資産}$	▼
	11	負債比率	$(\text{固定負債} + \text{流動負債}) \div \text{自己資金}$	▼

消費収支計算書関係比率

	番号	比率名	算式	評価
経営状況はどうか	6	帰属収支差額比率	$(\text{帰属収入} - \text{消費支出}) \div \text{帰属収入}$	△
収入構成はどうなっているか	8	学生生徒等納付金比率	$\text{学生生徒等納付金} \div \text{帰属収入}$	～
	9	寄付金比率	$\text{寄付金} \div \text{帰属収入}$	△
	10	補助金比率	$\text{補助金} \div \text{帰属収入}$	△
支出構成は適切であるか	1	人件費比率	$\text{人件費} \div \text{帰属収入}$	▼
	3	教育研究費比率	$\text{教育研究費} \div \text{帰属収入}$	△
	4	管理経費比率	$\text{管理経費} \div \text{帰属収入}$	▼
	5	借入金等利息比率	$\text{借入金等利息} \div \text{帰属収入}$	▼
	11	基本金組入率	$\text{基本金組入額} \div \text{帰属収入}$	△
	12	減価償却費比率	$\text{減価償却額} \div \text{消費支出}$	～
収入構成と支出のバランスはとれているか	2	人件費依存率	$\text{人件費} \div \text{学生生徒等納付金}$	▼
	7	消費収支比率	$\text{消費支出} \div \text{消費収入}$	▼

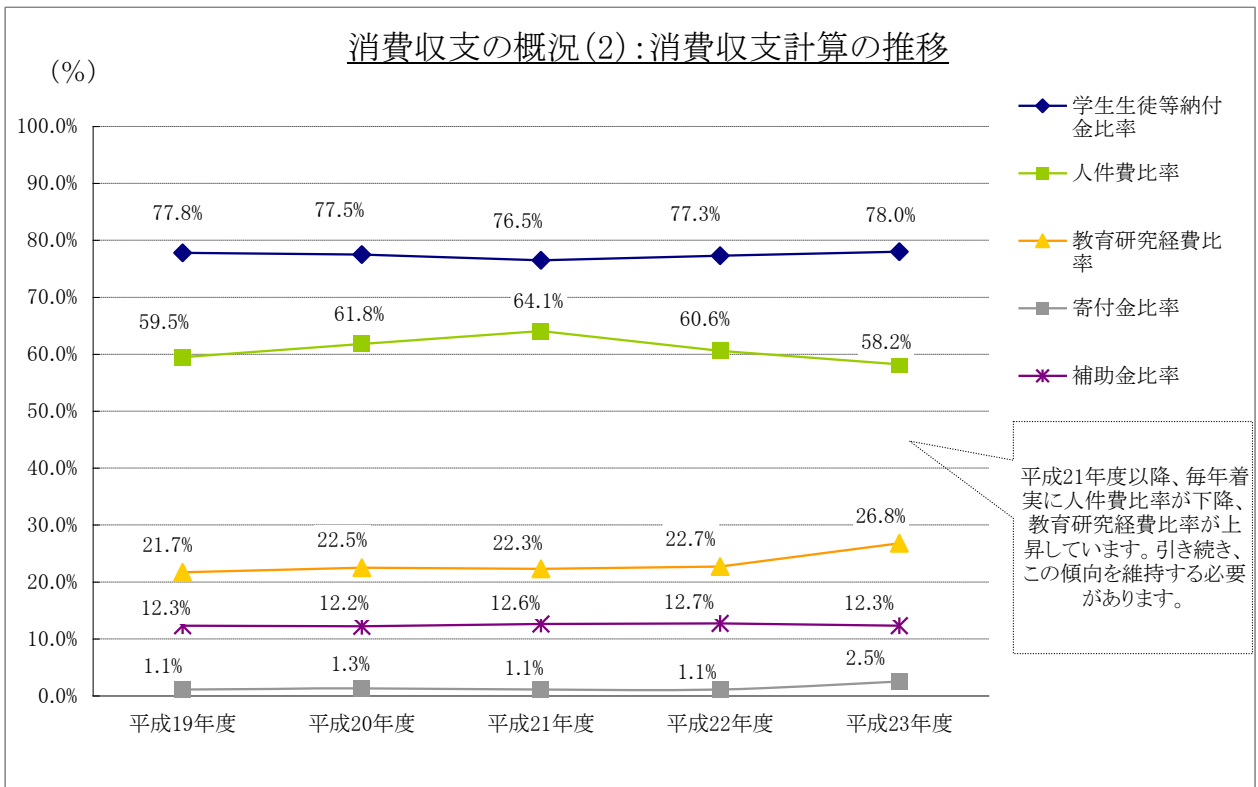
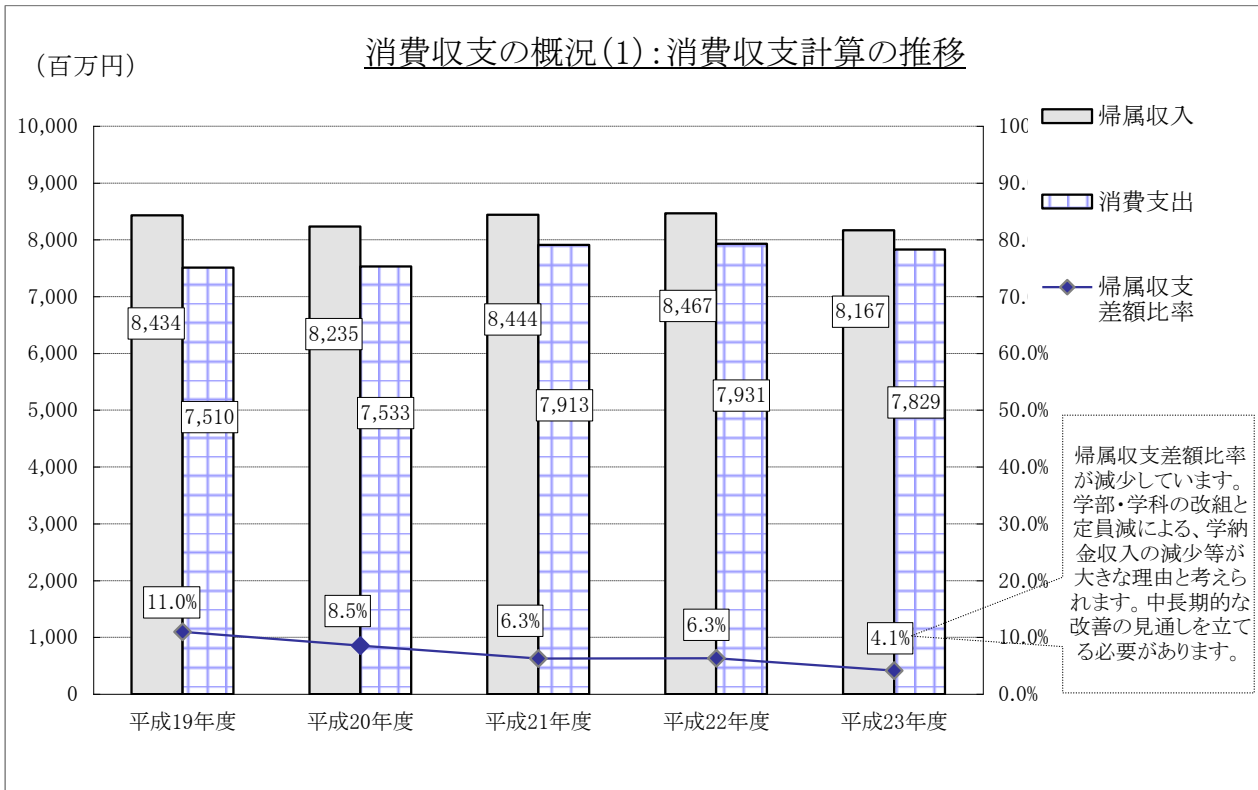
(注)1.財務比率の評価は、個々の学校法人に適用する場合に内部事情等を個別に判断しなければ、一概にその良否をいえませんが、日本私立学校振興・共済事業団では財務比率の高低の評価を次のとおりとしました。

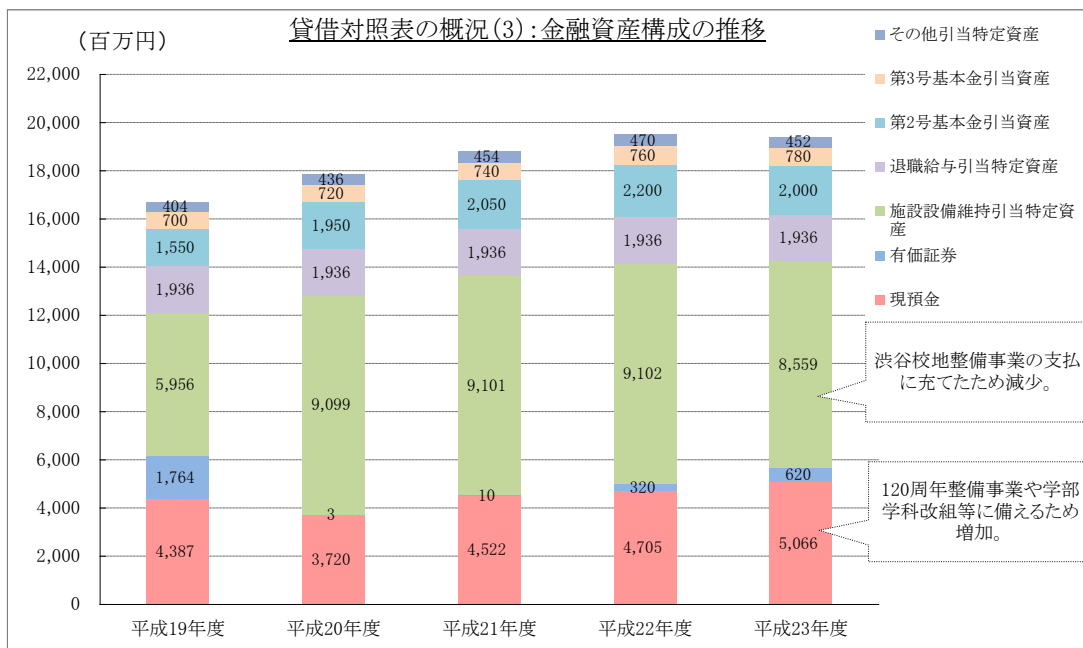
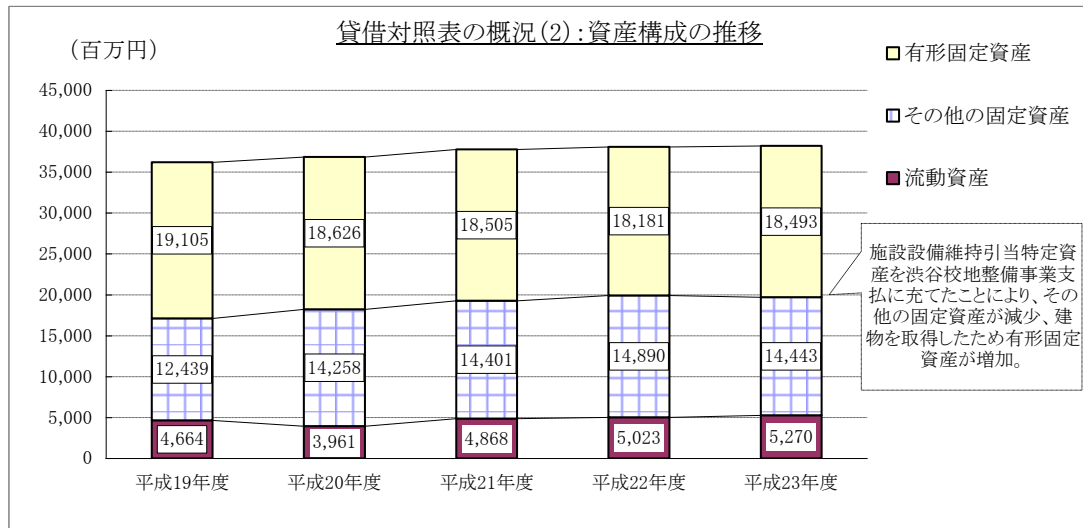
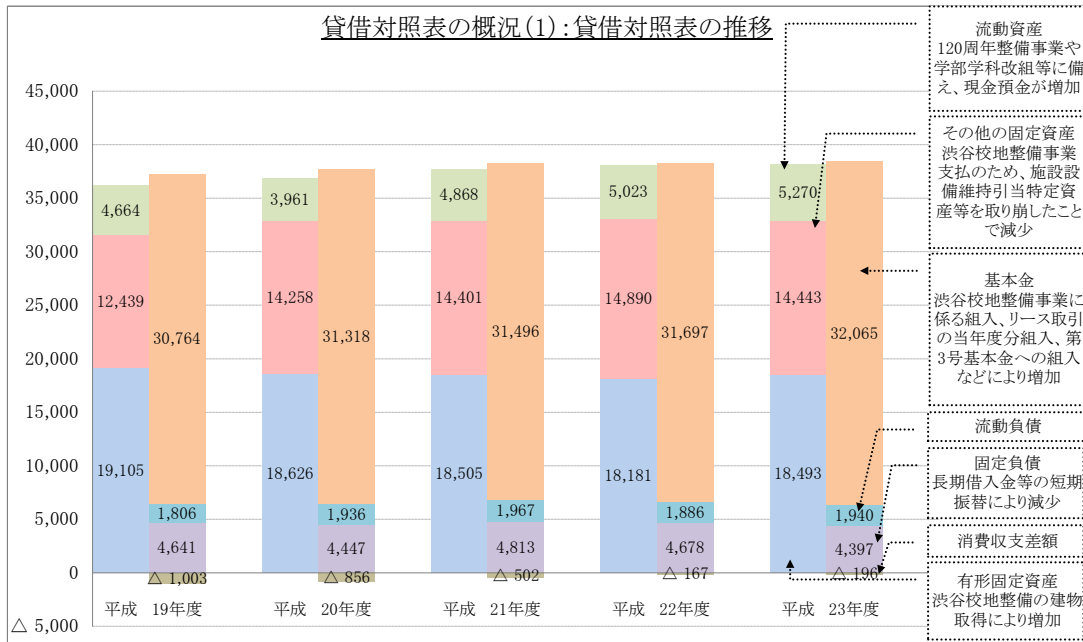
△高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

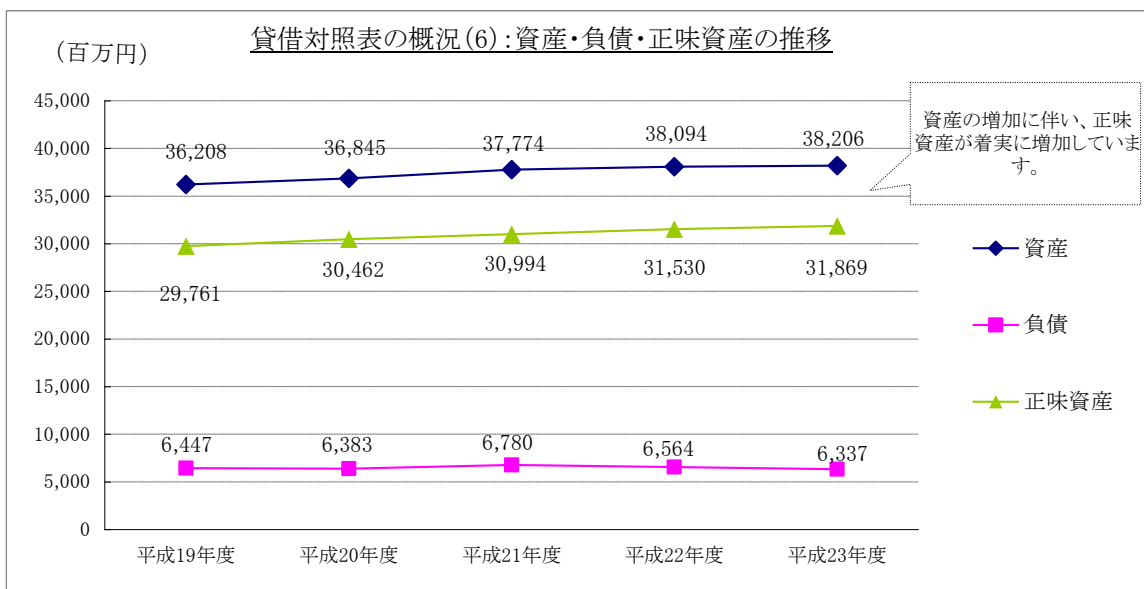
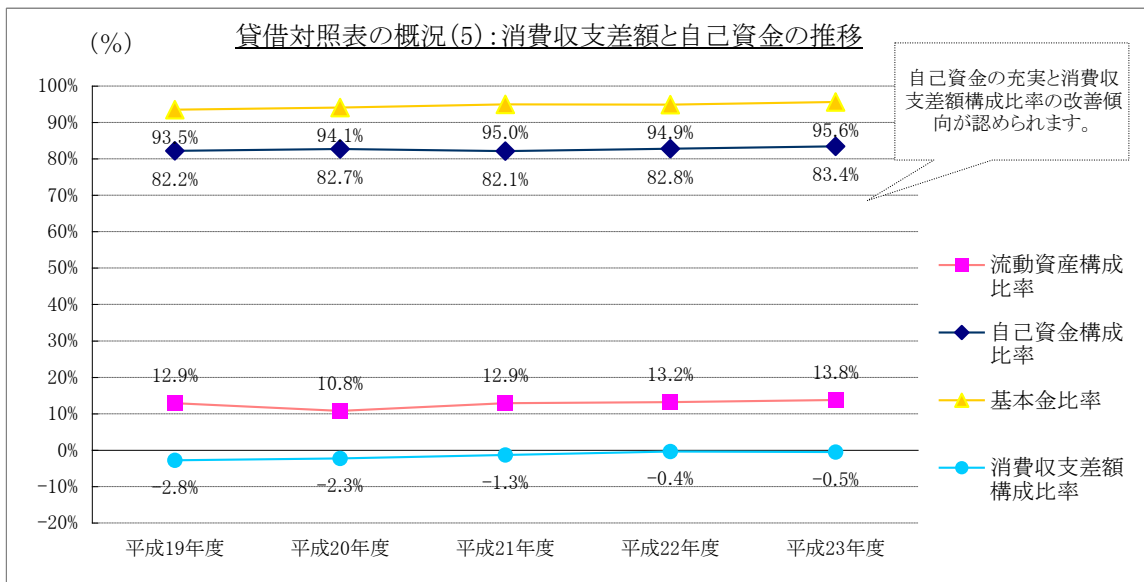
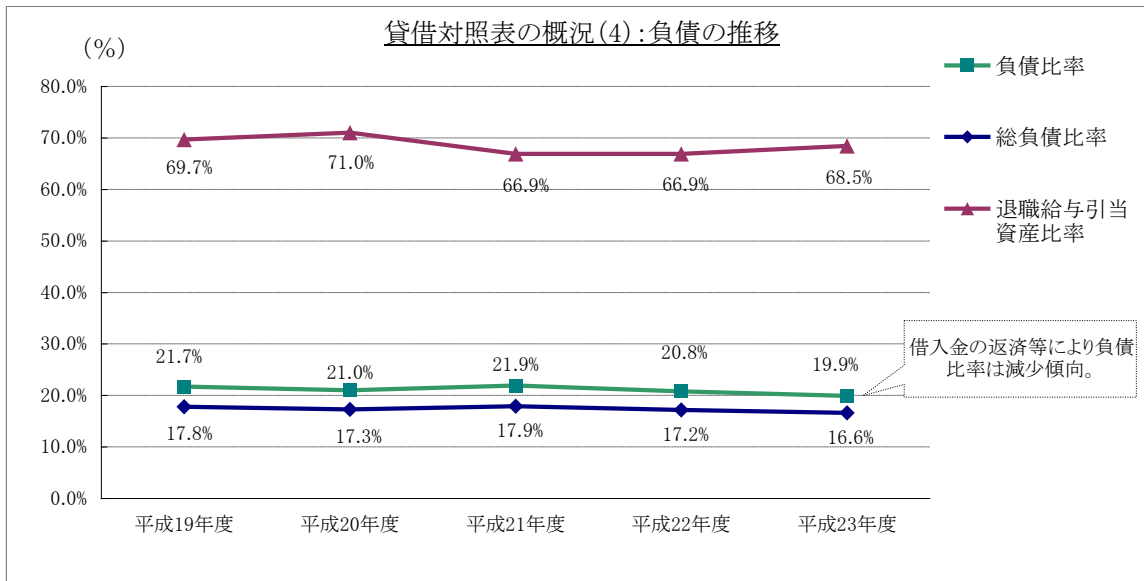
(注)2.総資産＝負債＋基本金＋消費収支差額 自己資金＝基本金＋消費収支差額

(注)3.番号は財務比率の区分を示しています。

(注)4.形式および注記は日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」H23年度版より転用しました。







[消費収入の部]

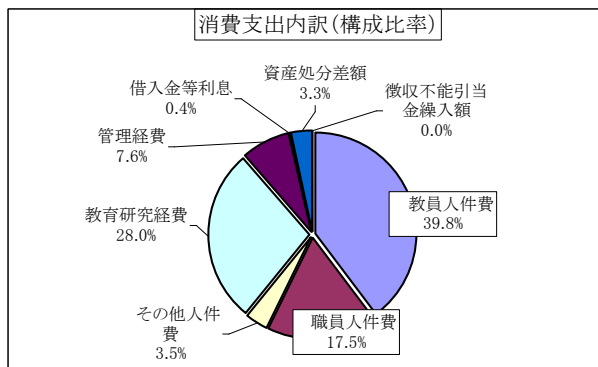
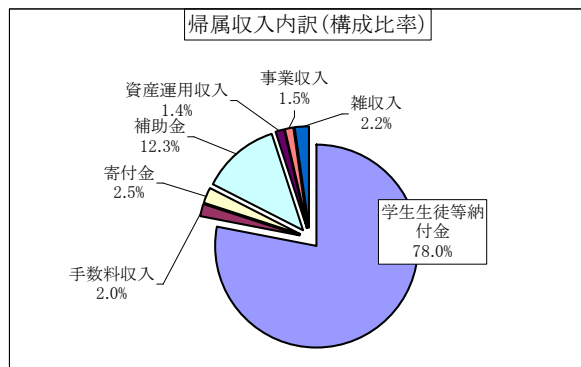
(単位:千円)

科 目	法人本部	構成比	大 学	構成比	短期大学	構成比	中高	構成比	合計	構成比
学生生徒等納付金	0	0.0	4,305,109	85.2	709,913	77.0	1,355,380	63.3	6,370,402	78.0
手数料収入	0	0.0	130,151	2.6	14,322	1.6	22,310	1.0	166,783	2.0
寄付金	0	0.0	118,301	2.3	18,554	2.0	67,050	3.1	203,905	2.5
補助金	0	0.0	300,723	6.0	109,021	11.8	596,933	27.9	1,006,677	12.3
資産運用収入	11,958	23.4	58,472	1.2	27,687	3.0	18,450	0.9	116,567	1.4
事業収入	37,683	73.7	45,249	0.9	30,275	3.3	9,006	0.4	122,213	1.5
雑収入	1,503	2.9	94,751	1.9	12,563	1.4	71,680	3.3	180,497	2.2
帰属収入合計	51,144	100.0	5,052,756	100.0	922,335	100.0	2,140,809	100.0	8,167,044	100.0
基本金組入額合計	△ 5,206	-10.2	△ 177,400	-3.5	△ 32,600	-3.5	△ 151,806	-7.1	△ 367,012	-4.5
消費収入の部合計	45,938		4,875,356		889,735		1,989,003		7,800,032	

[消費支出の部]

(単位:千円)

科 目	法人本部	構成比	大 学	構成比	短期大学	構成比	中高	構成比	合計	構成比
人件費	322,164	77.3	2,506,942	61.3	726,674	63.1	1,198,248	55.2	4,754,028	60.7
教員人件費	0	0.0	1,621,388	39.7	436,592	37.9	1,057,894	48.7	3,115,874	39.8
職員人件費	228,900	54.9	796,223	19.5	230,700	20.0	110,876	5.1	1,366,699	17.5
その他人件費	93,264	22.4	89,331	2.2	59,382	5.2	29,478	1.4	271,455	3.5
教育研究経費	0	0.0	1,257,463	30.8	325,339	28.3	607,010	27.9	2,189,812	28.0
管理経費	94,776	22.7	297,933	7.3	91,960	8.0	112,158	5.2	596,827	7.6
借入金等利息	0	0.0	7,377	0.2	0	0.0	21,833	1.0	29,210	0.4
資産処分差額	40	0.0	18,411	0.5	7,299	0.6	232,700	10.7	258,450	3.3
徴収不能引当金繰入額	0	0.0	96	0.0	235	0.0	0	0.0	331	0.0
消費支出の部合計	416,980	100.0	4,088,222	100.0	1,151,507	100.0	2,171,949	100.0	7,828,658	100.0
当年度消費収支差額	△ 371,042		787,134		△ 261,772		△ 182,946		△ 28,626	
当年度帰属収支差額	△ 365,836		964,534		△ 229,172		△ 31,140		338,386	



[財務比率比較表]

財務比率区分		学園	A法人	B法人	C法人	D法人	同規模法人平均
1	人件費比率	58.2	55.6	53.8	58.8	63.0	51.1
2	人件費依存率	74.6	72.5	69.7	75.2	81.1	78.5
3	教育研究経費比率	26.8	27.4	26.7	41.0	24.1	31.4
4	帰属収支差額比率	4.1	7.7	11.3	-6.2	5.5	2.2
5	消費収支比率	100.4	95.4	96.4	110.3	98.6	109.5
6	学生生徒等納付金比率	78.0	76.6	77.2	78.1	77.7	65.1
□	教育研究経費構成比率	28.0	29.7	30.1	38.5	25.5	
□	負債償還比率	2.1	4.3	3.2	0.9	5.2	

(注) 1.本学以外の数値は、平成22年度首都圏所在女子大学法人の数値。

2.□欄の比率は文部科学省寄附行為認可申請上の審査比率。